

# 第Ⅰ期 新館開館以前

第1回、昭和56年（1981）6月分～第31回、昭和60年（1985）3月分

### 第Ⅰ期第1回 奈良絵本

昭和56年6月1日(月)～6月29日(月)

室町時代から江戸時代にかけて作られた挿絵(大和絵風)入写本を奈良絵本と称しており、時代の新しいものは横本が一般的であった。奈良絵本の呼称は比較的新しい時代の造語で、典拠は明らかでない。挿絵は別に描いてのちに貼つたらしく、貼っていない未完成本も時に存在する。絵巻物と絵入板本との橋渡しの役割を果したといえよう。

#### 展示資料リスト

1. あきみち物語 上・下 1冊 <YD 丑-6>
2. 仁明天皇物語 1冊 <YD 丑-7>
3. 玉藻前 1冊 <YD 丑-8>
4. さころもの草子 1冊 <午-37>
5. 物くさ太郎 上・下 2冊 <YD 古-8>
6. 三草紙絵巻 4巻 <亥-218>
7. かさしの姫物語 1冊 <に-14>
8. こあつもり 1冊 <855-18>
9. しづか 1冊 <855-19>

### 第Ⅰ期第2回 丹緑本

昭和56年7月1日(水)～7月30日(木)

江戸初期に色摺(刷)が未発達で、版本の挿絵に極く簡略にさっと赤(丹)や緑・黄等の筆彩色を施すことが行なわれた。その色彩の代表を取って「丹緑本」と称される。寛永頃の古淨瑠璃本・仮名草子などの小型本に見え始め、絵図式のものなどにはやや丁寧に筆彩を加える傾向が

あった。しかし、残存しているものは少く、江戸末期にはすでにこれが珍重されていたという。

#### 展示資料リスト

1. 愛宕地蔵の物語 3冊 <か-67>
2. 烏ほしをり 1冊 <YD1-365>
3. つるぎのまき 1冊 <YD1-283>
4. 朝顔の露 1冊 <YD 京-195>
5. 待賢門平氏合戦 1冊 <YD 京-328>
6. 火おけの草子 1冊 <YD 京-148>
7. 遊利若大臣物語 1冊 <YD 京-189>
8. 猿源氏物語 1冊 <181-179>
9. 下野国日光山之図 1枚 <くるニ-117>

### 第Ⅰ期第3回 名所絵のいろいろ

#### その1

昭和56年8月1日(土)～8月29日(土)

#### 展示資料リスト

1. 扶桑探勝図 20巻1冊 <亥-194>
2. 安芸国厳島勝景図 1帖 <亥-181>
3. 丹後国天橋立之図 1帖 <亥-182>
4. 日本名所の絵 1枚 <亥-125>
5. 調布玉川惣絵図 1巻 <くるニ-13>
6. 角田川絵図 1巻 <へニ-25>

### 第Ⅰ期第4回 名所絵のいろいろ

#### その2

昭和56年9月1日(火)～10月9日(金)

#### 展示資料リスト

1. 扶桑探勝図 20巻1冊 <亥-194>
2. 陸奥国塩釜松島図 1帖 <亥-105>

3. 丹後国天橋立之図 1帖 <亥-182>
4. 安芸国巖島勝景図 1帖 <亥-181>

~~~~ \* ~~~ \* ~~~

第Ⅰ期第5回 近世の庭園 その1  
昭和56年11月26日(木)~12月25日(金)

展示資料リスト

1. 外山御庭之図 2巻 <亥-85>
2. 尾張侯上邸園池図 2巻 <亥-87>
3. 戸山尾張府公園池全図(文政) 1枚 <亥-91>
4. 沢恩園図記 1巻 <亥-96>
5. 沢恩園真景 下巻 1巻 <亥-97>
6. 柳澤侯六義園之図 上・中・下 3巻 <亥-103>
7. 柳澤侯駒込邸六義園全景 1枚 <亥-104>

~~~~ \* ~~~ \* ~~~

第Ⅰ期第6回 近世の庭園 その2  
昭和57年1月5日(火)~1月26日(火)

展示資料リスト

1. 桂宮御別荘全図 1枚 <亥-144>
2. 南都大乗院林泉真景 1枚 <亥-146>
3. 讀岐高松栗林園分間図 1枚 <亥-153>

~~~~ \* ~~~ \* ~~~

第Ⅰ期第7回 本草家 岩崎灌園自筆  
本を主として  
昭和57年1月28日(木)~2月23日(火)

今回は、白井光太郎旧蔵書を中心に本草家岩崎常正(号灌園)自筆本類を展示した。灌園は幕府の徒士で、天明6年

(1786)下谷に生れ、文化6年(1809)小野蘭山に入門、同年日光へ植物採集を試み、文化11年(1814)『古今要覧稿』手伝いを命ぜられ、文政3年(1820)小石川に薬種植場150坪を借用し薬草を栽培、大著『本草図譜』52冊までを天保12年(1841)に配本したが、翌13年(1842)病没、57歳であった。

展示資料リスト

1. 岩崎灌園画像 「本草図譜」 明治17年(1884) 1冊 卷首 <YDM61175>  
イワレガキ
2. 由緒書 1冊 <特1-968>  
子、信正(富士見御宝蔵番)が弘化4年(1847)に提出したものの控。
3. 入門控帳 1冊 <特1-2612>  
文化14年(1817)5月から12月の入門帳。
4. 本草会出席簿 1冊 <特1-2613>  
文化11, 12年(1828~29)中の本草会(8の日)参会者名簿。
5. 日光山紀行 1冊 <特1-2974>  
文化6年(1809)日光へ採薬を行った時の道中記。
6. 日光山草木之図 8冊 <よ-7>
7. 日光山草木之図 1冊 <特1-3389>  
植物名とその採地の書上げ。6.「日光山草木之図」執筆のための資料であろう。
- 8-1. 武江産物志 1冊 文政7年(1824)  
序 <特1-2956>
- 8-2. 武江略図 1枚 <特1-2956>
9. 採薬時記 1冊 <特1-2976>  
江戸近郊採薬時を月別に列記したものの。合写した草稿雑記は、これ以前のものか。この稿本は、8-1.「武江産物志」編集の資料であろう。
10. 種芸年中行事 1枚 <特1-3211>  
ウエモノ

- 天保 7 年 (1836) 刊 灌園閣藏板  
農産物、園芸植物などの植える時期等  
を、月別に示したもの。
11. 種芸年中行事 1 冊 <特1—2117>  
刊本の草稿。
  12. 本草図譜 卷之 5, 6 1 冊 (全 8 冊  
の内) 稿本 <特1—3407>
  13. 本草図譜 卷之 5 1 冊 (全 4 冊の  
内) <特1—669>
  14. 本草図譜 卷之 5, 6, 13, 14, 15 5  
冊 (全 92 冊の内) <に—25>  
田安家旧蔵
  15. 本草図譜記 1 冊 文政 13 年 (1830)  
4 月稿 <特1—2972>  
「本草図譜」配布控帳ともいべきも  
の。將軍、田安家、老中、若年寄など  
の名が見える。
  16. シイボルト肖像 1 軸 <特1—3284>  
文政 9 年 (1826) 来朝時写生したも  
の。
- ~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第 I 期第 8 回 本草家 伊藤圭介自筆  
本を主として  
昭和 57 年 2 月 25 日 (木) ~ 3 月 23 日 (火)

今回は、伊藤文庫中の伊藤圭介自筆本を中心にして展示することにした。  
伊藤圭介は、享和 3 年 (1803) 名古屋  
に、御目見医師西山玄道の次男として生  
まれ、父の実家伊藤家を相続、名は清民、  
号は錦窠と称した。父や水谷豊文らに学  
び、文政 4 年 (1821) 京都に遊学、同 9  
年シーボルトをその参府の際に訪ね、翌  
年長崎へ赴いて師事した。安政 6 年  
(1859) 洋学館総裁心得に就任、文久元  
年 (1861) 蕃書調所出役を命じられ、翌  
年物産局主任となった。明治 4 年 (1871)

文部省に出仕、同 6 年『日本產物  
志』の編集に従い、同 10 年東京大学理学  
部員外教授となり、小石川植物園・教育  
博物館に出勤、同 14 年教授となつた。明  
治 34 年 (1901) 没、享年 99 歳であった。

#### 展示資料リスト

1. 伊藤圭介画像  
「錦窠翁九十賀寿博物会誌」  
明治 26 年 (1893) 刊 2 冊 卷頭  
<特7—338>
2. [伊藤圭介] 日記 3 冊 <特7—440>  
文久 2 年 (1862) 3 月より 8 月まで。  
この前年、蕃書調所に召出され、この  
年物産局主任となつた。
3. 書簡集 3 冊 <特7—646>  
家族あて
4. 書簡集 2 卷 <特7—748>  
飯沼慾斎、江馬春齡、高橋仙果より  
圭介あて。
5. 書籍其他雑具覚帳 1 冊 <特7—648>  
明治 11 年 (1878) 愛知県より東京へ  
の送付品の目録。
6. 途中雑記 1 冊 <特7—430>  
文久 2 年 (1862) 高田馬場における  
採薬雑記など。
7. 泰西本草名疏目録 1 冊 稿本  
<特7—412>
8. 泰西本草名疏 3 冊 淨書本  
<WA22—4>
9. 泰西本草名疏 1 冊 文政 12 年  
(1829) 序跋の刊本 <特7—410>
10. 救荒食物便覽 1 枚 天保 8 年  
(1837) 刊 <特7—691>
11. 救荒本草私考 1 冊 天保 4 年  
(1833) 8 月稿 <特7—90>  
水谷豊文の書入あり。
12. 東西草木名譜 1 冊 稿本

13. 植学術語碎金 1 冊 稿本 <特7-585>
14. 〔植物図〕 1 帖 稿本 <特7-382>
15. 鳥類各彙 1 冊 稿本 <特7-13>
16. 人造菌之説 1 冊 明治 7 年(1874)  
稿 <特7-420>
17. 諸国産物質問扣稿 1 冊 稿本 <特7-389>
18. 本草会物品目録 1 冊 天保 6 年  
(1835) 嘗百社編刊 <特7-226>  
出品者27人、出品点数400余。

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

### 第 I 期第 9 回 スタインの内陸アジア 探検の記録

昭和57年3月25日(木)～4月27日(火)

Stein, Sir Mark Aurel. (1862年11月26  
日～1943年10月26日)

スタインはユダヤ系ハンガリ一人として、ブダペストに生まれた。ウィーン大学、ライプチヒ大学に学んだ後、チュービンゲン大学で、フォン・ロート教授の下でイラン学・インド学を修めた。ついでオックスフォード大学、ロンドン大学に留学、1888年、ラホールの東洋学校の校長に任命され、翌89年にはカルカッタ大学の校長となった。1900～01年、カーゾン卿の後援の下に、第1回中央アジア探検を行い、パミール高原を越え、東トルキスタン（現新疆ウイグル自治区）に入り、コンロン山脈を踏査、天山南路のダンダン・ウィリク、ニヤ等の遺跡の調査に多大の成果をあげた。1904年、英國に帰化した。

1906～08年、第2回の中央アジア探検に従事、天山南路のミラン、ローランで

多数の遺品を発掘、さらに東して甘粛省敦煌の千仏洞で古典籍、絵画を発見、全世界の注目を浴びた。「敦煌学」はこれから始まる。1913～16年の第3回の中央アジア探検では、東はカラ・ホトから西はバルチスタン、北はズンガリアから南はインダス河上流域におよぶ広い地域を調査し、考古学並びに地理学上多大の成果を得た。1926年には、インダス河上流およびスマート河流域を踏破し、アレキサンダー大王の東征ルートを考究した。1930年、第4回の中央アジア探検を企画したが、中国政府はこれを許可しなかった。これ以後、西南アジアの調査に力をそそぎ、イラン各地でローマ時代の遺跡の発見に大きな成果をあげた。1943年、80歳を越える高齢を押して、アフガニスタンの考古学的調査に当たろうと、ペシャワールからカーブルに入ったが、この地で急逝した。

### 展示資料リスト

1. Sand-buried ruins of Khotan ; personal narrative of a journey of archaeological & geographical exploration in Chinese Turkestan. London, T. Fisher Unwin, 1903. 524p.  
<GE389-3>

1900～01年の第1回中央アジア探検の個人的報告書。深田久彌氏旧蔵。この本は1904年、ロンドンのハースト・アンド・ブラケット社から廉価版が出されている。

2. Ancient Khotan ; detailed report of archaeological explorations in Chinese Turkestan. Oxford, Clarendon Press, 1907. 2v. <GE75-5>

第1回中央アジア探検の学術的報告

書。上冊はテキスト、下冊は図録。深田久彌氏旧蔵。1975年にニューヨークで複刻版が刊行されている。

3. Mountain panoramas from the Pamirs and Kwen Lun. London, Royal Geographical Society, 1908. 36p. fold. facsims. <GE671—58>

同じく第1回中央アジア探検の際に、パミール高原及びコンロン山脈から撮影したパノラマ写真集。深田久彌氏旧蔵。

4. Ruins of desert Cathay ; personal narrative of explorations in Central Asia and westernmost China. London, Macmillan, 1912. 2v.

<915.16—S819r>

1906～08年の第2回中央アジア探検の個人的報告書。第2巻の巻頭にスタインの肖像が掲せられている。小牧実繁氏旧蔵。

5. Serindia ; detailed report of explorations in Central Asia and westernmost China. Oxford, Clarendon Press, 1921. 5v. <YP5—128>

第2回中央アジア探検の学術的報告書。第1冊から第3冊までがテキスト、第4冊が図録、第5冊が地図96枚。

6. The thousand Buddhas ; ancient Buddhist paintings from the cave-temples of Tun-huang on the western frontier of China. London, B. Quaritch, 1921. 65p. portfolio (48 plates)

<YP14—250>

スタインが第2回中央アジア探検の際に発見した敦煌の千仏洞の図像。1978年に日本で複製版が刊行され、それには藤枝晃氏の懇切な解説が付されている。

7. Innermost Asia ; detailed report of explorations in Central Asia, Kansu and eastern Iran. Oxford, Clarendon Press, 1928. 4v.

<YP5—129>

1913～16年の第3回中央アジア探検の学術的報告書。第1冊と第2冊はテキスト、第3冊は図版、第4冊は地図52枚。スタインは、前2回の探検の際には、個人的報告書と学術的報告書の両方を出しているが、この時は学術的報告書のみである。

8. On Alexander's track to the Indus ; personal narrative of explorations on the north-west frontier of India. London, Macmillan, 1929. 173p. fold. maps. <GE635—42>

1926年、アレキサンダー大王東征のルートを調査するため、インダス河上流およびスワード河流域に赴いた時の記録。深田久彌氏旧蔵。

9. On ancient Central-Asian tracks ; brief narrative of three expeditions in innermost Asia and north-western China. London, Macmillan, 1933. 342p. <GE671—67>

1929年、スタインは米国に招かれ、ボストンのロウエル研究所で、3回にわたる中央アジア探検について、その概要を話した。この時の講演をまとめたのが本書である。深田久彌氏旧蔵。本書は日本語の翻訳も出版されている。

10. Archaeological reconnaissances in north-western India and south-eastern Iran. London, Macmillan, 1937. 267p. <913.4—S819a>

1931～33年、ハーバード大学と大英

博物館の資金援助を受け、西北インドおよび東南イランを調査した時の記録。深田久彌氏旧蔵。

11. Old routes of western Iran ; narrative of an archaeological journey carried out and recorded by Sir Aurel Stein. London, Macmillan, 1940. 432p. <913.55—S819o>

1932～36年の4度にわたる南および西イランの考古学的調査記録。

12. Wall paintings from ancient shrines in Central Asia. Described by F. H. Andrews. London, Oxford Univ. Press, 1948. 128p. portfolio (32 plates) <751.73—A566w>

スタインが中央アジア各地で収集した壁画の図録。解説者のアンドリュースはスタインの最もよき助手で、探検行のほとんどに随行し、出土品の整理や報告書の作成に尽力した人である。



### 第Ⅰ期第10回 ヘディンの内陸アジア 探検の記録

昭和57年4月30日(金)～5月25日(火)

Hedin, Sven Anders. (1865年2月19日～1952年11月26日)

中央アジア探検家として名高いスウェン・ヘディンは、建築士の長男としてスウェーデンのストックホルムに生まれた。15歳の時ノルデンショルドのヴェガ号が北極海の北東航路に挑戦、苦闘の末成功、無事横浜に入港、帰国したが、これに刺激されて極地探検家を志した。1885年名門ベスコフ校を卒業後、カスピ海沿岸バクーのノーベル商会技師長に家庭教師として招かれ、その間、ペルシア

に遊んだ。帰国後ストックホルム大学を経て、ベルリン大学教授 F. リヒトホーフエンの下で地理学を学ぶ (1889～1890)。1890～1891年、スウェーデン国王のペルシア派遣使節団の通訳官に抜擢され、任終わって一人ロシア領中央アジア、更に新疆カシュガルに至る。1892年7月ドイツのハレ大学から学位を授与。

1893～1897年、第1回中央アジア探検。ロシアのオレンブルグからパミール、カシュガルを経て、ターリム盆地、ツайдム、青海、オルドスを横断、北京に至る3年半の探検。その間生死の間をさまよったタクラマカンの横断行、ムズターグ・アタ登頂の試み、ダンダン・ウイリク発見、ロブ・ノール探検は有名である。

(1. 2.)

1899～1902年、第2回中央アジア探検。ターリム川を下り、ロブ・ノール、チベットを探検、1901年楼蘭の遺址を発見した。(3. 4.)

1905～1908年、第3回中央アジア探検。ペルシアからカビール砂漠を経てインドに至り、更にインドからチベット高原に入り、プラフマップトラ、インダス、サトレジ三大河川の源流を探り、トランス・ヒマラヤを発見した。旅行記に 5.6. が、学術報告書として 7.8. がある。なお、帰国の途次日本に立ち寄り、東京地学協会で講演した。その時の記念号が 21. である。

1927～1935年、第4回中央アジア探検。西北中国科学考古団 (1927～1933) と西北自動車遠征隊 (1933～1935) から成る。前者は包頭からウルムチのゴビ砂漠を科学的に総合調査するもので、後者は包頭、ウルムチを経て、安西、敦煌、甘肅、西安に至る自動車ルート調査を目的とし

た。その旅行記に 9.～13.があり、新疆の戦争、道路、ロブ・ノールを扱った有名な三部作が 14.～17.である。また 18.は西北科学考查団の成立と活動を概観する。

ヒトラーとの親交を疑われて、戦後は比較的淋しい生活を送った。アジア探検の良き伴侶だった犬や、野生の動物を扱った 20.を最後に、1952年ヘデインは87歳の生涯を終えた。

#### 展示資料リスト

##### \*邦訳されているもの

##### I (1893～1897)

\*1. Durch Asiens Wüsten, Drei Jahre auf neuen Wegen in Pamir, Lop-nor, Tibet und China. Leipzig, F.A. Brockhaus, 1899. 2v. <142—145>

\*2. Through Asia. London, Methuen, 1898. 2v. <GE671—8>

深田久彌氏旧蔵書。

##### II (1899～1902)

3. Im Herzen von Asien. Zehntausend Kilometer auf unbekannten Pfaden. Leipzig, F.A. Brockhaus, 1903. 2v. <142—146>

4. Central Asia and Tibet. Towards the holy city of Lassa. London, Hurst and Blackett, 1903. 2v.

<159—11>

##### III (1905～1908)

\*5. Overland to India. London, Macmillan, 1910. 2v. <915.5—H454o>

\*6. Trans-Himalaya ; discoveries and adventures in Tibet. London, Macmillan, 1909—13. 3v. <191—100>

7. Southern Tibet, discoveries in former times compared with my own

researches in 1906—1908. Stockholm, Lithographic Institute of the General Staff of the Swedish Army, 1916—22. 9v. atlas (3v.)

<915.15—H454s>

8. Eine Routenaufnahme durch Ostpersien. Stockholm, Generalstabens litografiska anstalt [1918—27] 2v. <YP5—132>

深田久彌氏旧蔵書。

##### IV (1927～1935)

\*9. Auf grosser Fahrt ; meine Expedition mit Schweden, Deutschen und Chinesen durch die Wüste Gobi, 1927—28. 11. Aufl. Leipzig, F.A. Brockhaus, 1940. 346p. <915.174—H454ill>

\*10. Across the Gobi desert. London, G. Routledge, 1931. 402p.

<915.1739—H454a>

\*11. Rätsel der Gobi ; die Fortsetzung der grossen Fahrt durch Innerasien in den Jahren 1928—1930. 5. Aufl. Leipzig, F.A. Brockhaus, 1940. 335p.

<915.16—H454ra>

12. Riddles of the Gobi desert. London, G. Routledge, 1933. 382p.

<915.16—H454r>

\*13. Jehol, city of emperors. London, K. Paul, 1932. 278p.

<915.178—H454j>

\*14. Die Flucht des Grossen Pferdes. 3. Aufl. Leipzig, F.A. Brockhaus, 1936. 262p. <915.16—H454f>

\*15. Big horse's flight ; the trail of war in Central Asia. London, Macmillan, 1936. 247p. <915.6—H454b>

\*16. The silk road. London, G. Routledge, [1938]. 322p. <915.16—H454s>

- \*17. The wandering lake. London, G. Routledge, [1940]. 293p. <915.16—H454w>
18. History of the expedition in Asia, 1927—1935. Stockholm, [Göteborg, Elanders boktryckeri aktiebolag], 1943—45. 4v. (Reports from the scientific expedition to the north-western provinces of China under the leadership of Dr. Sven Hedin. The Sino-Swedish expedition. Publication 23~26) <915.16—H454h>  
深田久彌氏旧蔵書。
- V.
- \*19. Sven Hedin as artist. For the centenary of Sven Hedin's birth, rev. and with suppl. by Gösta Montell. Stockholm, Sven Hedins stiftelse, Statens etnografiska Museum, 1964. 241p. <GE91—1>
20. Meine Hunde in Asien. 2. Aufl. Wiesbaden, F.A. Brockhaus, 1956. 265p. <RA468—10>  
深田久彌氏旧蔵書。
21. 東京地学協会編纂『地学論叢』第4輯 ヘディン号 東京 大日本図書株式会社 明治42(1909).8 114p.  
<YDM56377>
22. 馬仲英の逃亡 小野忍訳 改造社 昭和13(1938).10 383p. (大陸文学叢書 6) <750—146>  
最初のヘディン著作邦訳書。  
~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第Ⅰ期第11回 チャールズ・ダーウィンの著作と伝記—没後100年を記念して—

昭和57年5月27日(木)～6月22日(火)

Darwin, Charles Robert. (1809年2月12日～1882年4月19日)

進化論の提唱者として名高いC.ダーウィンは1809年医師の子として英国Shrewsburyに生まれ、1882年に死去した。今年は没後100年にあたる。

彼は幼少時8歳にして母を失ない、翌年、私塾寄宿生となる。1825年、エジンバラ大学医学生となり、博物学に熱中する。父の許しを得て医学を断念、1828年ケンブリッジ大学に神学生として籍を置くが、博物学への関心が強まるばかりであったという。1831年、大学を卒業したものの自然科学への興味から、同年末に測量船 H.M.S. ビーグル号に博物学者として乗船、プリマス港から世界一周の調査(1831年12月～1836年10月)に参加した。帰国後は、主として地質学や動物学の研究に従事し、早くも1833年“種の起源”の問題についてのノートを記している。その後、20余年を経て1859年「種の起源」を公刊し、翌年T.ハックスレー教授がオックスフォードで主催した討論会でS. ウィルバースと論争し、彼の進化論の勝利を決定づけた。彼の著作は、著名な進化論四部作のほか地質学、動物学、植物学、航海記と広範囲にわたり、多くの研究が発表されている。

1876年には自伝を書き、1881年に自らそれを補筆したが、生前には刊行することなく、死後5年たった1887年に子息フランシスの編集によって出版された。享

年73歳。ロンドン市内ウエストミンスター寺院に埋葬されている。なお、彼の進化論は生存中から欧米をはじめ諸外国に紹介されたが、今日でも数多くのダーウィン研究書が刊行されている。

#### 展示資料リスト

##### A. 進化論

1. *The descent of man, and selection in relation to sex.* New York, D. Appleton, 1871. 2v. <68—29>

人間の由来、および雌雄選択

2. *The variation of animals and plants under domestication.* 2d ed. New York, D. Appleton, 1876. 2v.

<61—6>

##### 飼養動植物の変異

3. *The expression of the emotions in man and animals.* New York, D. Appleton, 1873. 374p. <68—3>

人間と動物の感情の表現

4. *On the origin of species by means of natural selection.* 5th ed. New York, D. Appleton, 1871. 447p.

<68—31>

種の起原。当館では初版を所蔵しているが、貴重書に準ずる扱いのため、今回は展示していない<WB29—2>。

これらを合わせて進化論四大著作といっている。

5. 人祖論 神津専三郎訳 東京 山中市兵衛 1881 3冊 <YDM57670>

1.の抄訳で、ダーウィンの著書の本邦初訳。

6. 生物始源 一名種源論 立花銘三郎訳 東京 経済雑誌社 1896 958p

<YDM57081>

「種の起原」の本邦初訳

##### B. 地質学

7. *Geological observations on the volcanic islands, visited during the voyage of H.M.S. Beagle.* 1st ed. London, Smith, 1844. 175p.

<558—D228g>

##### 火山島の地質学的観察

8. *The structure and distribution of coral reefs.* 3d ed. New York, D. Appleton, 1889. 344p. <103—81>

##### サンゴ礁の構造と分布

- 7.8.に “*Geological observations on South America*” 「南アメリカの地質学的観察」一当館未所蔵一を合わせて地質学三部作といっている。

##### C. 動物学

9. *A monograph on the sub-class cirripedia with figures of all the species. The Balanidae; The Verrucidae, etc.* 1st ed. London, The Ray Society, 1854. 684p. <41—109>

##### 蔓脚類の研究—フジツボ科

10. *A monograph on the sub-class cirripedia, with all the species. The Lepadidae; or Peduculated cirripedes.* 1st ed. London, The Ray Society, 1851. 400p. <41—110>

##### 蔓脚類の研究—エボシガイ科

##### D. ビーグル号航海記

11. *Journal of researches into the natural history and geology of the countries visited during the voyage of H.M.S. Beagle round the world, under the command of Capt. Fitz Roy, R.N.* 2d ed. London, John Murray, 1845. 519p. <574—D228j>

##### ビーグル号航海記

##### E. 植物学

12. Insectivorous plants. New York, D. Appleton, 1875. 462p. <14—48>  
食虫植物
13. The effect of cross and self fertilisation in the vegetable kindom. New York, D. Appleton, 1877. 482p. <14—47>  
植物界における他家受精と自家受精の効果
14. The different forms of flowers on plants of the same species. 1st ed. New York, D. Appleton, 1877. 352p. <16—81>  
同種の植物上の花の諸形
15. Power of movement in plants, assisted by Francis Darwin. New York, D. Appleton, 1883. 592p. <18—58>  
植物における運動能力
16. The movements and habits of climbing plants. 2d ed. New York, D. Appleton, 1876. 208p. <14—49>  
攀援植物の運動と習性
17. The Various contrivances by which orchids are fertilised by insects. 2d ed. New York, D. Appleton, 1877. 300p. <13—96>  
ランの受精
18. The formation of vegetable mould, through the action of worms, with observations on their habits. 1st ed. London, John Murray, 1881. 326p. <16—111>  
ミミズの作用による栽培土壌の形成
- F. 自伝・書簡
19. Charles Darwin : his life told in an autobiographical chapter, and in a selected series of his published let-
- ters, edited by his son, Francis Darwin. London, John Murray, 1908. 348p. <925—D228d>  
自伝と書簡
20. The life and letters of Charles Darwin, including autobiographical chapter, edited by his son, Francis Darwin. London, John Murray, 1888. 395p. <90—15>  
生涯と書簡
21. ダーウィン氏自伝 五島清太郎訳 東京 敬業社 1891 125p. <YDM7686>  
「ダーウィン自伝」の本邦初訳。
22. Nature. Vol. 25 No. 652, April 27, 1882. <Z53—A28>  
ダーウィンの死去 8日後に出された T. ハックスレーの追悼文。
- ~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~
- 第Ⅰ期第12回 藩校旧蔵本と蔵書印  
その1  
昭和57年6月24日(木)～7月27日(火)

明治4年(1871), 廃藩置県により全国諸藩の藩学校は, その蔵書とともに文部省の所管となり各府県に委託された。ついで明治5年, 文部省の創立した書籍館(しょじやくかん)は, 若干の経緯の後, 明治8年, 文部省の所管に復し東京書籍館と改称した。当時, 同館の蔵書は, 「毎日登館シテ書籍ヲ展閲スル者, 十ノ六七ハ和漢ノ書ヲ求ム。然ルニ当館所有ノ書籍ハ過半英仏独ノ三語ニシテ, 実ニ和漢ノ書ニ乏シ」という状態であったので, 文部省は全国の各府県から旧藩学校の蔵書を収集して, これを同館に交付し, その「和漢ノ図書逐次齊備ニ至ラントス」

ることを企画した。この作業は明治8年から11年にかけて実施され、2府50県から、およそ3,100点(43,600冊)の旧藩学校の蔵書が収集され、東京書籍館(明治11年、東京府書籍館となる)の所有となった。慶応末年(1867)までに、全国諸藩により設立された藩学校は、およそ230校、その蔵書数は概算61,000点(1,049,000冊)と見込まれているが、前記の3,100点はおよそその5%に当たり、そのうちには多くの善本がある。これらの和漢書は、後に官制の改廃による移管、重複本の処分などもあったが、そのほとんどは、東京図書館を経て帝国図書館(明治30年設立)に引き継がれ、現在、当館の蔵書となっている。そのおよそ34%は、つぎの6藩、すなわち、仙台藩、名古屋藩、金沢藩、福井藩、和歌山藩、および岡山藩のものであり、今回の展示には、これら6藩の藩校本を選び、その蔵書印を紹介する。

#### 展示資料リスト

##### ○仙台藩

1. 遭厄日本記事附録 リコルト著 杉田予、青地盈訳・高橋景保校 文政8年(1825)序 2冊(合1冊) <130—26>  
蔵書印「仙台府学図書」(巻頭)
2. 花彙 島田充房、小野蘭山著 明和2年(1765)刊 8冊 <139—126>  
蔵書印「仙台府医学図書信」(巻頭)
3. 蝦夷国人物服器之図 高原明玄模写 1冊 <に—2>  
蔵書印「青柳館文庫」「勿折角勿卷脳勿以墨汚勿令鼠齧勿唾幅掲」(以上両印、藩儒青柳文藏所用)「市井臣文藏献仙台府書」(青柳文藏献上本の印)(いずれも巻頭)

##### ○名古屋藩

4. 外舶瞬覽 宮崎重伴、野村正徳編 弘化3年(1846)序 5冊(合3冊) <132—160>  
蔵書印「明倫堂書庫記」(巻頭) 明倫堂は藩校、1751年設立。
5. 三才図絵 明、王圻編 80冊(合30冊) <YD子—7>  
蔵書印「明倫堂図書」(巻頭)
6. 蝦夷地見込書秘書 堀利熙、村垣範正等著 嘉永7年(1854)成 1冊 <137—70>  
蔵書印「名古屋県学校印」(巻頭)

##### ○金沢藩

- 当館蔵の金沢藩校本は、およそ340点、諸藩校中もっとも多く、その大部分は家記をはじめとする古記録類の善写本、および唐本の地誌類である。ただし蔵書印のあるものはまれである。
7. 幸庵夜話 杉本義隣著 宝永6年(1709)成 1冊 <142—135>  
蔵書印「金沢学校」(巻頭)
  8. 大治四年記 源師時著 大治4年(1129)成 寛文2年(1662)写 1冊 <わ210.3—60>  
前田綱利(のち綱紀と改名、5代藩主)の奥書。
  9. 大府記 藤原為房(1049~1115)著 元禄15年(1702)写 5冊(合2冊) <わ210.3—37>  
前田綱紀の奥書。

##### ○福井藩

- 当館蔵の福井藩校本は、およそ200点、金沢藩校本について多い。
10. 国史館記并条例 林鷺峯著 寛文4年(1664)成 1冊 <136—170>  
蔵書印「明道館図書記」(見返し)  
明道館は藩校、1855年設立。「越國文庫」

「図書寮」(いずれも巻頭)

国史館は「本朝通鑑」編修のため幕命により設立された修史局。

11. 三家考 新井白石著 享保10年  
(1725)跋 3冊 <133-16>

蔵書印 「図書寮」(見返し) 「越国文庫」「朝散大夫伊勢国久世源広正藏書」(旧蔵者印か)(いずれも巻頭)

12. 備蛮策 筒井政憲(1778~1859 南町奉行、大目付を歴任)著 嘉永2年  
(1849)成 1冊 <197-106>

蔵書印 「越国文庫」「図書寮」(いずれも巻頭)

これは同年、幕府が三奉行以下の幕臣に異国船打払令復活の可否を諮問したさいの答申書。政憲は難解な漢語の使用者として有名であり、これに対する松平慶永(号は春嶽、15代藩主)の評語がある。展示本は春嶽の手写本か。

○和歌山藩

13. 野府記 藤原実資(975~1046)著  
20冊(合10冊) <わ210.3-47>

蔵書印 「学習館記」(巻頭) 学習館は藩校、1791年設立。

14. 十津河之記 1冊 <202-101>  
蔵書印 「紀伊国古学館之印」(巻頭)

15. 色のちぐさ 田中納言著 文政元年  
(1818)刊 1冊 <132-164>  
蔵書印 「紀伊国学所印」(遊び紙)

○岡山藩

当館蔵の岡山藩校本は、およそ150点、そのうちに朝鮮通信使と藩儒松井良直等との献酬の漢詩文集が20点ほどある。

16. 大坂日記 1冊 <130-47>  
蔵書印 「岡山学校」(巻頭)

17. 備陽岡山学校記 1冊 <136-71>  
蔵書印 「備陽岡山学校典籍」(巻頭)  
外題: 国学記 自寛文六丙午至元禄十

三庚辰 本書は岡山藩校の日誌。

18. 問槎余響 伊藤維典編 明和元年  
(1764)刊 1冊 <138-7>

蔵書印 「備前国学文庫」(巻頭)

19. 対鳴筆語 古賀精里等著 1冊  
<136-10>

蔵書印 「備前国学之記」(巻頭)

20. 蔵器遺稿 有吉以顯(号は藏器)著  
文政10年(1827)序 4冊 <144-38>

蔵書印 「備前州閑谷文庫図籍」(巻頭)  
閑谷校は、領民教育の学校の一つとして、1670年設立。

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第Ⅰ期第13回 昭和20年8月15日一太  
太平洋戦争によるわが国の被害につい  
ての資料一

昭和57年7月29日(木)~8月24日(火)

昭和20年8月15日、この日をもって太平洋戦争は終結した。この戦争によって、わが国は物的にも人的にもぼう大な被害をこうむった。戦後37年、わが国は経済的にはめざましい発展をとげたが、戦争の傷跡は、現在でもわれわれの生活の中に色濃くその影をおとしている。本展示は、太平洋戦争によるわが国の被害の全体像を、日本側の被害調査、米国側の調査報告および各地での被災記録の三つの資料群によって明らかにしようとするものである。

展示資料リスト

〔第1部〕 戦争被害調査資料関係

1. 太平洋戦争による我国の被害総合報告書 経済安定本部総裁官房企画部調査課 昭和24年4月  
<210.75-Kel16t>

「戦争被害調査資料 4」として刊行されたもの。戦争被害、特に空襲被害についての総合的資料として、戦後作成された最も貴重な資料の一つと評価されている。

2. 広島長崎に於ける原子爆弾による物的被害 一附人的被害 経済安定本部 総裁官房企画調査課 昭和23年6月

〈憲政資料室収集文書 1209-5〉  
「戦争被害調査資料 5」として、謄写印刷により作成されたもの。当時の諸事情から未公表であった資料である。

3. 同 (原稿)

〈憲政資料室収集文書 1224〉

4. 広島市原爆被害図

〈憲政資料収集文書 1220〉

「総合報告書」の作成に携わった小川 利太氏が昭和23年1月に作成したものの。2.から4.までの資料は、昭和52年8月、小川利太氏から当館に寄贈されたもので、現在、当館憲政資料室で閲覧に供されている。

[第2部] 米国戦略爆撃調査団報告書関係

米国戦略爆撃調査団 (The United States Strategic Bombing Survey) は、ルーズベルト大統領の指令に基づき、戦略爆撃の効果を調査するため、1944年11月、陸軍長官によって創置されたもので、太平洋戦争に関する報告書は108巻が刊行された。当館はそのうち47巻の原本を所蔵するにすぎなかつたが、近年、日本占領関係資料の収集の一環として、その全巻 (マイクロフィルム) 〈YD-208〉を収集した。

5. The effects of atomic bombs on Hiroshima and Nagasaki. Govt. Print. Off., 1946. <623.4543-Us89e>

前述の「米国戦略爆撃調査団報告書 太平洋戦争」の第3巻にあたるものである。

6. 広島・長崎における原爆の影響 昭和35年 (航空自衛隊幹部学校編『米国 戦略爆撃調査団報告』第14)

〈GA86-6〉

5.の全訳。

7. The effects of strategic bombing on Japan's war economy. Govt. Print. Off., 1946 <940.544-Us898ej>

太平洋戦争報告書の第53巻にあたるもの。

8. 日本戦争経済の崩壊 一戦略爆撃の日本戦争経済に及ぼせる諸効果 正木 千冬訳 日本評論社 昭和25年

〈332.1-A461n-M〉

7.のほぼ全訳で、当館所蔵の原本をもとに翻訳されたものである。

9. Tactical Mission Report of the 21st Bomber Command. Mission no. 40 (Flown 10 March, 1945) 1945

〈USB-5〉

第21爆撃機軍団戦術任務報告第40号で、昭和20年3月10日の東京大空襲に関する米軍側の諸資料が含まれている。このマイクロフィルムは、当館現代政治史資料室 (現在、憲政資料室) で利用に供されている。

[第3部] 各地の空襲・戦災の記録

太平洋戦争の末期、米軍による沖縄進攻、本土への爆撃機による空襲は、わが国の市民生活に甚大な被害を与えることとなった。それらの詳細な記録が、近年、各地の自治体や市民団体の手によって続々とまとめられてきている。これらの動きの端緒は、昭和45年の「東京空襲を記録する会」の誕生に

よってひらかれ、全国各地に広がっていった。

その一例としては、

東京大空襲・戦災誌 全5巻 東京空襲を記録する会 昭和49年  
(GB541-53)

川崎空襲・戦災の記録 全3巻 昭和52年  
(GB554-259)

静岡市空襲の記録 静岡市空襲を記録する会 昭和49年 (GB554-352)

神戸大空襲 神戸空襲を記録する会 昭和47年  
(GB531-23)

高松の空襲 高松空襲を記録する会 昭和48年  
(GB554-232)

福岡大空襲 西日本新聞社 昭和49年  
(GB554-272)

日本の空襲 全10巻 三省堂 昭和56年  
(GB531-93)

などがある。このほか、各地の空襲被害については、個人の体験記や市町村史、県史などの一部にも含まれているが、ここでは主として、各都市の「空襲を記録する会」によってまとめられた空襲被害に関する図書を、当館所蔵のなかから選び、全国的な動きの概略を鳥瞰できるよう展示了。

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第Ⅰ期第14回 大正12年9月1日 関東大震災

昭和57年8月26日(木)～9月30日(木)

大正12年9月1日午前11時58分関東地方南部を襲った地震は、1府6県にわたって甚大な被害を与えた。罹災者69万世帯・340万人、うち死者約9万1千人、行方不明約1万3千人、負傷者約5万2千人に達している。

本展示は、下記の資料によってその一端を示すものである。

展示資料リスト

[初期の報道]

1. 大阪朝日新聞 号外 大正12年9月1日(4種), 2日, 6日 (関東大震災記事集) <427-61>
2. The New York Times. 1923年9月4日, 6日 (複製) <YB-F4>
3. 山陽新報 大正12年9月3日(複製) <YB-34>
4. 大震災と通信(複製) 「図録大震から復興への実状」(中外商業新報社編刊大正13)による。 <423-434>

[被害状況]

5. 新旧対照関東大震災記念 木戸正栄著 大成社 大正13 <415-25>
6. 国際写真情報 第2巻11号(関東大震災号) (大正12.10) 国際写真情報社 <Z051.4-Ko3>
7. 東京消失—関東大震災の秘録 小川益生編 広済堂出版 昭和48 <EG77-64>
8. 大正大震災大火災 大日本雄弁会講談社編刊 大正12 <526-51>
9. 帝都大震火災系統地図 東京帝国大学罹災者情報局編 大阪毎日新聞社・東京日日新聞社 大正12 <415-20>

[震災と朝鮮人]

10. 流言の真相 帝都復興協会編刊 大正12 <特118-35>
11. 関東大震災 姜徳相著 中央公論社 昭和50(中公新書) <GB481-15>
12. 関東大震災と朝鮮人—船橋市とその周辺で 千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会準備会[ほか]編 昭和53 <GB481-23>

- (自治研版「船橋の歴史」資料編第1集)  
〔直後の世相〕
13. 東京府大正震災誌 東京府編刊 大正14 <423—439>
14. 大正民謡・地震小唄(第4) 大正民謡研究会著 弘楽社 大正12 <特118—66>
15. 罷災者必携一震災に関する一切の法令手引 岩田宙造述 東京朝日新聞社編刊 大正12 <特118—27>
16. バラック・罷災者の為に 小谷保太郎編 正教社 大正12 <特118—26>  
〔海外の救援〕
17. 大正大震大火之記念 内田茂文著 每日通信社出版部 大正12 <415—18>
18. 外国義捐金品一覧表 大正13年4月30日現在 外務省通商局編刊 <368—217>  
〔震災と図書館〕
19. 文献の喪失・文化の破壊(『中央史壇』第9巻3号 大正13.9) 国史講習会 <526—78>
20. 関東震災画報 第1輯 大阪毎日新聞社編刊 大正12 <415—13>  
〔関係資料〕
21. 大正震災志(下) 内務省社会局編刊 大正15 <526—96>
22. 神奈川県震災誌 神奈川県編刊 昭和2 <526—109>
23. 東京震災録(中輯) 東京市役所編刊 大正15 <423—441>
24. 大正大震火災誌 改造社編刊 大正13 <423—433>
25. 震災記念・十一時五十八分 東京市役所・万朝報社編 万朝報社出版部 大正13 <526—69>
26. 子供の震災記 初等教育研究会編 目黒書店 大正13 <526—64>
27. 関東地方震災救援誌 大阪府編刊 大正13 <EG77—110>
28. 大震災善後会報告書 大震災善後会編刊 大正14 <526—93>
29. 帝都復興事業大観(上) 東京市政調査会監修 日本統計普及協会編刊 昭和5 <605—40>
30. 神奈川の写真誌—関東大震災 金井円・石井光太郎編 有隣堂(横浜) 昭和46 <GC74—4>
31. 関東大震災—写真記録 森田峰子編 国書刊行会 昭和55 <GB481—25>
32. 手記関東大震災 清水幾太郎監修 関東大震災を記録する会編 新評論 昭和50 <GB481—14>
33. 大正の朝鮮人虐殺事件 北沢文武著 鳩の森書房 昭和55 <GB481—29>
34. 関東大震災の禍根—茨城・千葉の朝鮮人虐殺事件 松井優子・五島智子著 筑波書林(土浦) 昭和55 ふるさと文庫 <GB481—26>
35. 関東大震災における朝鮮人虐殺の真相と実態(朝鮮に関する研究資料 第9集) 朝鮮大学校 昭和38 <210.697—Ty992k>
36. 関東大震災と朝鮮人(現代史資料 6) 姜徳相・琴秉洞編 みすず書房 昭和38 <210.7—G29>
37. 大地震に生きる—関東大震災体験記集 品川区編刊 昭和53 <GB481—20>
38. 関東大震災体験記録集 墨田区役所編刊 昭和52 <GB481—18>
39. 亀戸事件の記録 亀戸事件建碑記念会編 日本国民救援会 昭和48 <GB481—22>
40. 古き横浜の壞滅—アメリカ人の震災体験 O.M. プール著 金井円訳 有

- 隣堂(横浜) 昭和51 有隣新書  
 〈EG77-101〉
41. 私は激震の中にいた—旧制第一高等学校学生被災体験記集 有朋社 昭和48  
 〈GB481-4〉
42. 関東大震災 中島陽一郎著 雄山閣出版 昭和48  
 〈GB481-2〉
- ~~~~~ \* \* \* ~~~~

**第Ⅰ期第15回 国立国会図書館の蔵書印**  
 昭和57年11月15日(月)～12月25日(土)

蔵書印は、図書の所有者がその図書に捺印して所有を明らかにする「しるし」であり、東洋において特に発達した。漢字の書体、捺された図書の用紙や用いられた印肉(主に朱)などの多様さがあいまって独自の発達をみている。公的な文庫や図書館で使用された蔵書印も例外ではなく、蔵書印を通じてその収書の沿革を知ることができ、所蔵館の歴史をさぐる手がかりともなる貴重な「しるし」である。

当館には、明治5年(1872)創設の書籍館以来の国立図書館と、同23年(1890)の帝国議会開設と共に、貴族院、衆議院の両院事務局に誕生した議会図書館との二つの源流がある。今回の展示では、ほぼ年代を追い、当館の源流である図書館で使用された蔵書印について主要な用例を紹介する。

**展示資料リスト**

1. 天馬賦 董其昌著 清修館蔵版  
 [刊年不詳] 1帖 〈145-167〉  
 蔵書印 「書籍館印」(見返し) 董其昌は明代の書家

2. 黴毒小篠 設孟斯著 近藤董訳 青黎閣 明治5(1872) 1冊 〈YDM59734〉  
 蔵書印 「書籍館印」(巻頭) 資料は駆梅法を説いた米国の医学書の訳書。

明治5年8月、文部省博物局は湯島聖堂内に書籍館を開館したが、翌6年、博覧会事務局へ合併、7年7月には聖堂が地方官会議場に必要として閉館、浅草に移して浅草文庫と改められた。よって文部省は別に書籍館を創設し、8年5月より東京書籍館として発足させた。浅草文庫は以後7年間存続し、その蔵書は現在、内閣文庫、宮内庁書陵部、東京国立博物館等に伝存する。資料1.2.は浅草文庫へ引継がれなかつた実用書等の一部であろう。文部省蔵書印の併捺がある。

3. 文部省博物局・博覧会事務局記録  
 文部省博物局 [明治5-6(1872-73)]  
 2冊 〈YDM300394〉

前掲、博物局における博物館、博物園、書籍館創設等にかかる記録文書。明治5年4月起草の書籍館建設布告、同借覧(拝見とある)規則案文の末尾に「書籍館 一寸二分」と記す。蔵書印ではなく、むしろ公印(案)として提出したものであろう。

4. 海軍沿革論 前篇2 ヤンセン著  
 内田正雄訳 大学南校 明治4(1871)  
 [初版:明治2] 4冊(前、後篇各2巻) 〈YDM52587〉

蔵書印 「東京書籍館 明治5年文部省創立」(見返し) 資料は海外軍事書の訳書。内田正雄は旧幕臣。世界地理書「輿地誌略」により著名。

明治8年2月、文部省により「館事更ニ創始」の気概をもって発足、同省蔵書1万余冊を基礎とし、また納本の

交付（のち内務省より）を受け、今日にいたる納本図書館の基礎をふみ出した。前記に見るように、蔵書の構成を主に考えれば当館はこの明治8年を起点とする。

5. 代議政体 第4冊 弥児(ミル)著  
永峰秀樹訳 奎章閣 明治8—11(1875—78) 4冊 <YDM28139>

蔵書印 「東京府書籍館 紀元二千五百三十有七年 LIBRARY OF TOKIOFU」 「東京府書籍館蔵書印」(いずれも巻頭) 資料は J. S. Mill の著。

西南の役による行政整理にともない、東京書籍館は10年2月廃止、ひき続いて東京府が明治10年5月から13年5月までの間、東京府書籍館として経営した。印文の皇紀2537年は開館の明治10年を示す。

6. 東京図書館季報 明治20年7月—9月、10月—12月 東京図書館編・刊  
明治20—21(1887—88) 2冊(合本1冊) <YDM101493>

蔵書印 「東京図書館蔵」(扉) 資料は「蔵書目録の速報と貸付図書、求覧(閲覧)人員の実況」を周知すべく創刊した館報だが、2号で中絶した。

明治13年7月、文部省に復帰して東京図書館と改称。明治18年には湯島から上野へ移り、教育博物館の蔵書を吸収、明治22年には東京図書館官制公布へと、国立図書館の体制を進めた。蔵書印には大小三種の角印のほか、丸形小印(館名を英和併刻)も見られる。

7. 水野年方新聞小説挿絵 第9,18(明治41年8月19日寄贈受入) 2冊(全80冊ノ内) <YDM70519>

蔵書印 「帝国図書館蔵」(表紙) 資料は日本画家水野年方が諸新聞に寄稿

した挿絵の貼込帖で、明治41年、年方の死後、夫人から寄贈されたもの。

東京図書館は明治30年(1897)4月、官制を改め帝国図書館となった。明治39年3月には現存の館舎を新築開館。以後、昭和22年末、国立図書館と改称するまでの間、甲部図書だけでも約72万余冊の収書にこの印を捺した。

8. 座右宝 絵画 絵巻之部 志賀直哉編 座右宝刊行会 大正15(1926) 4冊 <414—40>

蔵書印 「帝国図書館蔵」(扉) 資料は、志賀直哉編集の古美術観賞写真集として著名な出版物。

当館(旧)使用印中、最大のもの(7.5×7.5cm)。新聞や特別書大型本に捺されたが、前掲7.との使い方は特になかったようであり、昭和22年末まで使用している。

9. 新憲法と民主主義 河村又介著 国立書院 昭和23(1948)

<323.4-K A95ウ>

蔵書印 「国立図書館蔵」(扉)

昭和22年12月4日、政令により国立図書館と改称。同24年3月末の廃庁まで使用された。4月以降は国立国会図書館へ統合、支部上野図書館と称したが、蔵書印は本館と同一の印(後掲12.)を捺す。

印は展示のもの(4.4×4.4cm)のほか小形(3.6×3.6cm)で同文のものがあり、共に昭和23年1月以降受入の図書に捺したようである。

10. 貴族院先例録 第1—50回 貴族院事務局編・刊 大正14(1925)

<BB2—2>

蔵書印 「貴族院図書印」(扉)

11. Le Midi de La France : Depuis L'

Auvergne et y compris Les Alpes.  
par K. Baedeker. Leipzig, K. Baedeker, 1889.

〈9640—02衆〉

蔵書印 「衆議院図書印」(タイトル・ページ)

著名な地理案内書 Baedeker's guide books の1冊。背に「バエドケル氏仏国南部」と付箋があり、明治34年2月の購求印が捺してある。

明治23年(1890)、帝国議会の発足と共に貴族院、衆議院の両院事務局内に図書室が設けられ、以後、仮議事堂の災禍や機構の改廃を経ながらも、当初からの蔵書をよく存続し、目録の刊行も數度におよび憲政の伸展に貢献した。戦後、新憲法下の国会法の制定にしたがい（貴族院は参議院と改たまるが、蔵書印は使用しない）国会図書館から国立国会図書館へと引きつがれた。

12. 資本論 第1巻 1分冊 マルクス著 高畠素之訳 改造社 昭和2(1927) 〈a330—481〉

蔵書印 「国立国会図書館蔵書」(扉裏)

13. 古版書誌論叢 富永先生華甲記念 天理大学出版部 昭和37(1962)

〈020.4—Te147k〉

蔵書印 「国立国会図書館蔵書」(扉裏) [12と同じ。受入日付印を併捺]

資料は富永牧太天理図書館長の還暦記念論集。寄贈者印（本書では編者寄贈）は現在も使用している。

12. 13. はいずれも昭和23年2月創設された当館において使用。昭和38年1月、「蔵書印及び隠し印に関する件」(館長決定)により簡略化され、つぎの14.に改めてからは、一般和装書へ捺す

ようになった。蔵書印（甲種図書に捺す）は和漢、洋書の区別なく同一印を捺すが、登録番号（図書の本籍にあたる。1冊1番号）は和漢書、洋書に大別され、12.の「資本論」は当館和漢書登録の第1番本である。

なお、通常は13.のように、蔵書印、受入日付印、登録番号（ナンバーリング）を捺したので——この他、隠し印と、当初数年間には巻頭印も捺した——受入冊数の増大とともに、その簡素化が必要となり、つぎの14.(現行の方式)に改めた。

14. 蔵書印集成 平野喜久代編・刊 昭和49(1974) 2巻 解説1冊付  
〈W991—33〉

蔵書印 「国立国会図書館蔵書」(受入日付を併記)(扉) 資料は、編者が収集、印刻した私刊本。

登録方法の簡素化による事務の能率化と図書の利用を早める目的で、昭和38年4月以降、この蔵書印と受入日付印を一個の丸印（ゴム印）に統合した形のものを用いている。寄贈された時期がたまたま和漢書の登録番号で100万冊に達した折に当り、前後の番号をふり当てた。

15. 成稿 肥前風土記新考 井上通泰著 [昭和8(1933)] 4冊 〈291.92—I442h〉

蔵書印 「国立国会図書館」(大)(巻頭)

16. 北越物産写真 乾、坤、龜協従輯 寛政12(1800)稿 2冊 〈W373—35〉

蔵書印 「国立国会図書館」(小)(見返し)

15. 16. は共に憲政資料や和装本、特に巻子本に捺してきたが、昭和44年以降は貴重書・準貴重書に限定し使用し

ている（昭和44年7月決定「貴重書及び準貴重書取扱要領」参照。他に「国立国会図書館蔵書」と刻した小形印（7×26mm）と、梅花形の職員記章を模した形の受入日付印を併捺する）。展示資料はいずれも一般書（和装本）に使用時期のもの。

15.は、門人の筆写に井上通泰が朱訂を加えたもの（刊本は昭和9年刊）。16.は本草書。亀協従は江戸渋谷の人といわれ、越後ちぢみの技法書「績麻録」の著がある。

17. 官員録（太政官職員録他）明治7（1874）4冊 <14.1-3>  
蔵書印「国立国会図書館蔵書」（巻頭） 資料は明治初年の職員録の一種で、旧帝国図書館本を補完するもの（昭和52年10月受入）。

憲政資料、和装本に用いる印のうち、小型本（軸装共）に捺している。昭和38年以降和装書用となった12.に合せ、また貴重書・準貴重書用の15.16.とも区別するため、印文は「国立国会図書館蔵書」としている。

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

### 第Ⅰ期第16回 近世琉球の異国船と宣教師 昭和58年1月5日（水）～1月25日（火）

14～16世紀頃の琉球は、中国・朝鮮および東南アジア諸国と自由に交易する海洋独立国家として栄えてきたが、慶長14年（1609）の薩摩藩による進攻によって半植民地化され、薩摩藩の傀儡国家になると同時に、中国の冊封をもうける両属国家となった。近世になってヨーロッパ産業革命がおこると、その製品販路と資

源を求めて、欧米諸国の船舶は東洋の国々に開国を求め、通商や布教を要求するようになった。イギリスとの南京条約（1842年）、アメリカとの望厦条約（1844年）およびフランスとの黄埔条約（1844年）などによって、中国が開国すると、当然、勢力は東漸して鎖国日本の扉を開こうとするが、開国までの中継基地として琉球の那覇港が利用されるようになつた。

1816年、イギリス全権大使アマースト卿を中国に護送したライラ号艦長バジル・ホールの『中国・朝鮮海岸及び大琉球島探検航海記』は、42日間滞在した琉球の牧歌的理想郷を好意的に記述して、ヨーロッパ各国語に翻訳された。これは、異国船に対する警戒心が江戸幕府にもそれほどなかった頃で、その後、日本に開国・通商・布教を打診する異国船が頻繁になるにつれ、1825年の幕府の異国船打払令は、薩摩藩を通じて琉球にも通達され、異国船に対する寛容と協調性が琉球から失われだした。

1837年、日本漂流民7名を護送する名目で、貿易を打診するためにマカオから日本に向った商船モリソン号は、日本では砲撃をうけて失敗したものの、途中、那覇では数日間上陸しており、またイギリス測量艦サマラン号は1843～1845年の間、前後3回も八重山（石垣）に滞在し、官民の好意的な協力で調査するなど、日本内地とは異った開放的な面があった。しかし、武力をもって明確に通商・布教を求めて来琉する欧米の艦隊がふえるにつれ、琉球側もその武力に屈して上陸を許し交渉の席につき、あまつさえ、仏・英宣教師の滞留さえ余儀なくされた。中国の開港では、英・米に遅れをとったフ

ランスは、その東洋艦隊セシル提督に軍艦3隻を従えさせ、沖縄北部の運天港に1か月半停泊し、交渉を行なう一方、1千有余の兵員を上陸させて示威的な教練を行ない、薩摩藩の了解をえて運天港を貿易港にする予定であった。また、アメリカ東シナ海艦隊のペリー提督は4隻の軍艦を率いて、1853年5月から1年2か月の間に、那覇に4回寄港し、那覇から2回江戸湾に行って、日米和親条約をとりつけた。その後、アメリカとフランスは琉球国とそれぞれの条約を締結している。さらに1854年2月、4隻からなるプチャーチン提督のロシア艦隊が長崎から那覇に入港し、停泊は僅か9日間であったが、同行の作家ゴンチャロフは、その『日本渡航記』のなかで琉球の仔細な観察を記している。

開国・通商・布教を求める欧米の艦隊には宣教師が同乗しており、1844年4月に那覇にきたフランス軍艦アルクメール号は、日本との開国交渉に必要な日本語通訳要員としてフランス・カトリック宣教師フォルカードと、その助手の中国人を上陸させた。その後、フランスは1862年までに8名の宣教師を交互に派遣し、布教は琉球側の妨害によって成果はなかったが、日本語は熱心に習得し、また琉球・薩摩人もフランス語を彼等から習った。島津斉彬もこれら宣教師を利用して、奄美大島・琉球に開港場、軍艦購入、留学生の派遣などの交渉を始めたが、斉彬の急死によって交渉は頓挫した。在琉球宣教師は日本の開国と同時に、長崎・横浜・函館に行き、天主堂建設に着手している。一方、イギリスのプロテスタントのベッテルハイムは、1846年から8年有余滞在し、聖書の琉球語訳・日本語訳に

情熱を燃やして出版している。

今まで、通商・布教を目的とした異国船を述べたが、1852年2月にアメリカの苦力貿易船ロバート・バウン号が八重山の石垣に漂着し、380名の中国人が上陸した。中国人苦力410名を乗せてアモイを出港したバウン号は、待遇粗悪、契約違反から中国人が暴動をおこし、米人船長、高級船員を殺害して、石垣に漂着した。これらの苦力は、アメリカの金鉱採掘、鉄道建設に従事するための者で、その募集方法には多くの不正があった。漂着船は離礁してアモイに引返し、英米軍艦に上陸中国人の捕獲を要請した。派遣された軍艦は艦砲射撃を加え、陸戦隊が上陸し、苦力数十名を捕獲したが、逃げ残った者のうち、病死・自殺などの死亡者120名、生存者は八重山に1年10か月滞在し、その間、琉球政府は中国福建当局に米英領事と交渉依頼するなど、当時の大きな国際事件となった。

#### 展示資料リスト

##### I. 異 国 船

1. 琉球貿易図屏風(複製) 『別冊太陽』 第17号(1976年11月) <Z23—238>
2. Account of a voyage of discovery to the west coast of Corea, and the great Loo-choo Island, by Basil Hall. Philadelphia, 1818. <GC311—3>
3. ブロッサム号来琉記 大熊良一訳著 東京 第一書房 1979 <GC311—376>
4. 大琉球島探検航海記 バジル・ホール著 須藤利一訳補 台北 野田書房 1940 <291.99—cH17d—S>
5. Narrative of the voyage H. M. S. Samarang, during the year 1843—46, by Edward Belcher. v. 1. London,

1848. 〈特20—0253〉
6. 琉球八重山島異船漂来届 1844年,  
英測量艦サマラン号来着時の薩藩より  
江戸幕府への報告写本  
憲政資料室所蔵〈石室秘稿〉
7. Narrative of the Expedition of an American squadron to the China Seas and Japan... 1852, 1853, and 1854, under M. C. Perry, U.S. Navy. v. 1, comp. by F. L. Hawks. Washington, 1856. 〈C—108a〉
8. ペリー日本遠征隨行記 S. W. ウィリアムズ著 洞富雄訳 東京 雄松堂書店 1970 (新異国叢書8)  
〈GB391—22〉
9. Гончаров, И. А. Фрегат "Паллада". Москва, Сов. Россия, 1976. 〈GE84—31〉
10. 日本渡航記 フレガート「パルラダ」号より ゴンチャロフ著 井上満訳 岩波書店 1959 (岩波文庫)  
〈291.099—cG63n-I〉
11. 日本渡航記 ゴンチャローフ著 高野明, 島田陽共訳 東京 雄松堂書店 1969 (新異国叢書11) 〈GB391—18〉
12. 大日本古文書 幕末外国関係文書 附録之1 東京大学史料編纂所編 東京大学 1913 〈GB22—6〉
13. 旧条約彙纂 第3巻(朝鮮・琉球) 外務省条約局編 1934  
〈329.9—G13k2〉
- II. 宣教師
14. La "Religion de Jésus" (Iaso jakyo) ressuscitée au Japon dans la seconde moitié du XIXe siècle, par F. Marnas. t. 1. Paris, 1897. 〈D—62〉
15. 歴代宝案 第15冊 別集「仏英情状」 台北 国立台湾大学 1972  
〈GC311—227〉
16. 仏人宣教師フォルカードおよび英人宣教師ベッテルハイムの滞在を江戸幕府に報告した写し  
憲政資料室所蔵〈石室秘稿〉
17. 切支丹の復活 前編 浦川和三郎著 東京 国書刊行会 1979 (昭和2年刊の復刻本) 〈HP123—89〉
18. Letter from B. J. Bettelheim. "The Chinese Repository", v. 19. Canton, 1850. 〈Z52—B492〉
19. 路加伝福音書(ベッテルハイム琉球語訳) "Classica Japonica facsimile series in the Tenri Central Library." Section 10. Varia II 2. 天理図書館編 1977 〈US11—1〉
20. 馬太伝福音書・馬可伝福音書 漢和対訳 ベッテルハイム〔著〕 東京 新教出版社 1979 2冊 〈W17—4〉
- III. 中国苦力貿易船の八重山漂着
21. British parliamentary papers. China, no. 3; Correspondence, dispatches and other communications of Chinese coolies, 1852—58. repr. 1971. 〈BG—8—5〉
22. American diplomatic and public papers, the United States and China. Ser. I, v. 17: The coolie trade and Chinese emigration.  
〈A99—UC8—20〉
23. 繁辦夷務始末 咸豐朝卷7 故宮博物院編 北平 1930  
〈319.22—Ty9952〉
24. 四国新檔(法国檔・美国檔・辦理撫局) 中央研究院近代史研究所編 台北 1966 (中国近代資料彙編)  
〈GE298—44〉
- ~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第Ⅰ期第17回 洋書にみる日本の花  
昭和58年1月27日(木)～2月22日(火)

園芸学、植物学の貴重な資料として高い評価を受けているCurtis's Botanical Magazineは、1787年に英國のWilliam Curtis(1746～1799)によって創刊された世界最初の銅版刷手彩色図入りの植物学雑誌である。その収載植物は、外国の珍しく美しい園芸種に集中し、このため本誌は植物学雑誌というよりむしろ園芸植物学雑誌とよぶのが適当であろう。創刊者のCurtisは、ロンドンで薬種業を営む傍ら、植物学、生薬学を研究、また自園で植物の収集と栽培に従事し、その目録等を刊行している。1777年にはFlora Londinensisの刊行を計画したが第1巻で中止し、この出版の経験を生かして創刊されたのがCurtis's Botanical Magazineである。以後200年余、雑誌名や編集等の変遷はあるが今日まで継続刊行されている。今回の展示では、その収載図版の中から、日本に関連した花を選び、歳時記風に12カ月にあてて展示了。このほか、江戸時代に日本を訪れ、帰国後日本の植物を歐州に紹介したケンペル、ツュンベリー、シーボルト等の著作から代表的な日本の花の図譜を展示了。

展示資料リスト

1. Curtis's Botanical Magazine.  
Royal Botanic Gardens, Kew. Vol. 1  
(1787)～.(旧誌名:Botanical Magazine.)  
1月 福寿草 Curtis's Botanical Magazine. vol. 122 (1896).  
2月 水仙 Botanical Magazine.

vol. 24 (1806).

- 3月 桃 Curtis's Botanical Magazine. vol. 161 (1938).
- 4月 桜 Curtis's Botanical Magazine. vol. 148 (1923).
- 5月 ツツジ Curtis's Botanical Magazine. vol. 120 (1894).
- 6月 紫陽花 Curtis's Botanical Magazine. vol. 110 (1884).
- 7月 百合 Curtis's Botanical Magazine. vol. 88 (1862).
- 8月 朝顔 Curtis's Botanical Magazine. vol. 94 (1868).
- 9月 桔梗 Botanical Magazine. vol. 7 (1794).
- 10月 秋海棠 Botanical Magazine. vol. 36 (1812).
- 11月 菊 Curtis's Botanical Magazine. vol. 156 (1933).
- 12月 椿 Botanical Magazine. vol. 2 (1788).
2. Miller, Phillip. 1691—1771.

Figures of the most beautiful, useful, and uncommon plants described in the Gardener's dictionary... London, Printed for the author, 1760. 2v.

〈YP19—130〉

(ミラー:植物図譜)

P.ミラーは世界で最初の「園芸家辞典」(Gardener's and florist's dictionary, 1724)の著者。本書は、この中から300種の薬園植物を集めた銅版手彩色図譜。

3. Siebold, Philipp Franz von. 1796—1866.  
Flora japonica sive plantae... Digessit J. G. Zuccarini. Lugduni Batavorum, 1835—1870. [Tokyo,

Kodansha, 1976.) 3v. <YP19-146>

(シーポルト：日本植物誌)

日本で採集し、持ち帰った資料の中から園芸植物および有用植物151種を選んで収載した彩色図譜。その図の精密、美麗なことでは最高の書といわれる。

4. Thunberg, Carori Petri. 1743—1828.

Flora japonica sistens plantas insularum iaponicarum... Lipsiae. in bibliopolio I. G. Müllerians, 1784. (Reproduced by Shokubutsu-bunken Kankokai, Tokyo, 1933.) <Ea-154>

(ツュンベリー：日本植物誌)

滞日中に収集した日本の植物768種をリンネの植物分類新体系によって整理した植物誌。リンネの植物分類体系を初めてわが国に紹介したもので、近代日本植物学の基礎となった書。

5. Thunberg, Karl Peter.

Icones plantarum japonicarum, quas in insulis japonicis annis 1775 et 1776 collegit... Upsaliae, Litteris J. F. Edman, 1794—1805. <YP19-85>

(ツュンベリー：日本植物図譜)

銅版画による50種の日本の植物を集めた図譜。

6. Kaempfer, Engelbert. 1651—1716. The history of Japan... London. H. Sloane, 1727. 2v. (Kyoto. Reprint Koseikaku, 1929) <B-106a>

(ケンペル：日本誌)

日本の歴史、風俗、産業などをまとめた旅行記。日本の植物を観察し記載した部分がある。



## 第Ⅰ期第18回 藩校旧蔵本と蔵書印

### その2

昭和58年2月24日(木)～3月22日(火)

前回（第12回 昭和57年6月24日～7月27日）に引き続き、当館が収蔵する藩校旧蔵本を展示する。今回は、高知藩、水戸藩、庄内藩、姫路藩、津藩、および福山藩の藩校本を選び、その蔵書印を紹介する。以上のうち、福山藩校本は、約60点の洋書をも含むので、その若干を併せて紹介する。

### 展示資料リスト

#### ○高 知 藩

教授館(こうじゅかん) 宝暦11(1761)  
山内豊敷(とよのぶ)創立。致道館 文久2(1862) 山内豊範創立。

1. 琉球曆

<195-71>

蔵書印 「教授館居」「秘府図書」(いずれも巻頭) 清朝乾隆27(1762)の暦。当時の琉球は清朝の正朔を奉す。

2. 蝦夷拾遺 1冊 青地俊藏ほか著  
成立年不詳 <139-12>

蔵書印 「教授館図書」「高知県学校印」(いずれも巻頭) 北海道地誌。

3. 大島筆記 戸部良熙著 宝暦12(1762)成立 5冊(合2冊)<131-5>  
蔵書印 「教授館図書」(巻頭) 琉球地誌。土佐大島に漂着せる琉球人よりの聞書。

4. 太田道灌自記 伝太田道灌著 1冊  
丁酉(1717)12月28日新井君美識語  
<142-7>

蔵書印 「玉山文庫」「教授館居」ほか  
に土佐山内家紋印(いずれも巻頭) 奥  
書「土佐国高知城内写終／山内内膳藤

原豊矩」 隨筆。

5. 有職小説 横島昭武著 元禄  
11(1698)刊 6冊 <183—333>

蔵書印 「御数寄屋方居」「致道館藏書之章」ほかに土佐山内家紋印(いずれも巻頭) 有職故実書。

6. 阿芙蓉彙聞 塩谷容陰著 弘化4  
(1847)自序 8冊 <130—61>

蔵書印 「江戸学館居」(江戸藩邸内の藩校蔵書印)(巻頭) 阿片戦争記事。

7. 御船御乗初記 稲毛実編 文政  
11(1828)自序 1冊 <135—51>

蔵書印 「教授館図書」(扉) (展示本は安政6(1859)写) 藩記録。

#### ○水 戸 藩

弘道館 天保14(1843) 德川斉昭創設。

8. 威公命令 高倉逸斎編 文政3  
(1820)成立 1冊 <133—54>

蔵書印 「弘道館印」(巻頭) 頼房(威公)藩政例規集。

9. 文苑遺談続集 青山延于著 1冊  
<132—25>

蔵書印 「弘道館印」(扉) 「水戸青山氏蔵」(巻末) 奥書「乙巳(1845)晚夏仲旬男延寿写」 水戸藩儒伝記。

#### ○庄 内 藩

致道館 文化13(1816) 酒井忠器(ただかた)創立。

10. 座右書 伊勢貞丈著 安永7(1778)  
成立 書写年未詳 14冊(合7冊)  
<135—6>

蔵書印 「致道館蔵書印」「川原塚文庫」(いずれも巻頭) 弓術書。

#### ○姫 路 藩

好古堂 元禄4(1691) 酒井忠拳(ただかた)創立。

11. 天書記 伝藤原浜成著 2冊(合1

冊) <129—70>

蔵書印 「好古堂図書記」「仁寿山荘」(仁寿校は文化年間、郷校として設立)「飾磨県官立古学蔵書印」(姫路県は明治4(1871)年11月、飾磨県と改称)(いずれも巻頭) 奥書「享保11(1726)午年卯月五日写之/秀能井主膳守尹(花押)」 神代史。

12. 御代々文事表 近藤守重著 5冊  
<199—25>

蔵書印 「好古堂図書記」「飾磨県官立古学蔵書印」(いずれも巻頭) 徳川歴代将軍の学問・文芸の事蹟年表。

#### ○津 藩

有造館 文政3(1820) 藤堂高兌(たかさわ)創立。

13. 大日本野史 飯田忠彦著 嘉永5  
(1852)成立 刊年未詳 30冊  
<195—36>

蔵書印 「有造館記」(巻頭) 通史(自後小松天皇至仁孝天皇)。

14. 扶桑城図記 著者・成立年未詳 3  
冊(合2冊) <ほ—67>

蔵書印 「有造館記」 全国城郭絵図。

#### ○福 山 藩

弘道館 天明6(1786) 阿部正倫創立。誠之館 安政元(1854) 阿部正弘創立、同館内に福山国史寮・福山洋学所・講武所等を設置。

15. 坡仙集 万暦庚子(1600)序刊 15冊  
(合8冊) <162—49>

蔵書印 「弘道館蔵書」ほかに「福山義倉余金所購」(義倉積立金の剩余による購入書の意)の朱印(いずれも巻頭) 蘇東坡詩文集。

16. 禹貢錐指 胡渭著 康熙44(1705)序  
刊 12冊(合6冊) <165—31>

- 蔵書印 「福山文庫」(この黒印は漢籍に多し)(巻頭) 「禹貢」(「書經夏書」中の1篇) の地誌考証。なお、「錐指」は管見の意。
17. 崇禎曆 羅雅谷ほか著 明朝崇禎9(1636)序 書写年未詳 47冊(合17冊) <198-2>  
蔵書印 「福山文庫」「茶棟(?)書屋」「福山県中学校」(いずれも巻頭) 西洋暦学を採用した暦学書。
18. 螢蠅抄 塙保己一編 文化8(1811)自序刊(展示本は嘉永3(1850)版) 6冊(合3冊) <128-28>  
蔵書印 「福山国史寮文庫記」(この朱印は国書に多し)「誠之館蔵書」(いずれも巻頭) 古典籍から外交・軍事関係記事を抄録したもの。
19. Groot Nederduitsch Taalkundig Woordenboek, door P. Weiland. Dordrecht, 1859. <蘭937>  
蔵書印 「福山誠之館印」「深津県」(いずれもタイトル・ページ)(福山県は明治4年11月、深津県に併合) 表紙裏に墨書「ウェーランド氏著／和蘭語学字書」 本辞書は H. L. Schuld による新訂版。緒方洪庵の適塾などで使用されたものは旧版。
20. Algemeen Aardrijkskundig Woordenboek, door J. van Wijk Roelandszoon. Dordrecht, 1823. <蘭948>  
蔵書印 「福山文庫」(この朱印は蘭書に多し)「福山誠之館印」(いずれもタイトル・ページ) 表紙裏に墨書「地名字引」 世界地理学辞典。
21. Reglement op de Exergitien en Manoeuvres der Infanterie. Breda, 1855. Nagedrukt te Nagasaki in het Jaar Anse. i 4. (1857.) <蘭649>
- 蔵書印 「福山誠之館印」(タイトル・ページ)「誠之館蔵書」(タイトル・ページ裏) 展示本は安政4(1857)長崎での活字復刻版、遊紙に「長崎官事点検印」「安政丁巳」(1857)の朱印 全3巻 歩兵操典。
22. Algemeen Militair Zakwoordenboek, door W. J. Creutz Lechleitner. Gravenhage, 1839. <蘭938>  
蔵書印 「講武所文庫」(見返し)「福山誠之館印」(見返し裏) 遊紙に墨書「兵学字書／第二番」。
23. Art of War, by Baron de Jomini. Philadelphia, 1862. <27-113>  
蔵書印 「福山洋学所印」(この朱印は英書に多し)(タイトル・ページ) ロシア皇帝侍従武官 Jomini 男爵著 “Principles of the art of war” (原書は仏語) の抄訳。
24. 和蘭汎乙蘭土文範 初篇 安政3(1856)刊 (Nederduitsche Spraak-kunst, door P. Weiland. Dordrecht, 1839) <蘭3366>  
蔵書印 「福山誠之館印」「誠之館蔵書」(いずれも見返し) 木版による復刻版。

第I期第19回 東京裁判に関する資料  
昭和58年3月24日(木)～4月26日(火)

東京裁判（極東国際軍事裁判）は、昭和21年5月3日に公判が開始され、昭和23年11月12日に最終判決が言い渡された。この世紀の裁判において、わが国のかつての指導者が、「平和に対する罪」などによって裁かれただけでなく、それまで国民の目からかくされていた数多くの

事実が明らかにされた。

### 展示資料リスト

#### 〔第1部〕 東京裁判記録

1. 極東国際軍事裁判速記録 第1号—第416号 極東国際軍事裁判所 昭和21年—昭和23年 <329.49—Ky9953>
2. 法廷証拠第278号(溥儀書翰)及び鑑定関係資料 <憲政資料室所蔵>
3. 法廷証拠第763号(満蒙国境地図) <憲政資料室所蔵>

#### 〔第2部〕 東京裁判へのジャーナリズムの対応

4. 東京裁判 第1—8輯, 特輯 朝日新聞法廷記者団 ニュース社 昭和23年—24年 <329.49—A839t>
5. 東京裁判報告 第3集 真珠湾 柳下奏一等著(東京新聞社) 唯人社 昭和22年 <329.49—Y139t>
6. 25被告の表情 読売法廷記者著 労働文化社 昭和23年 <329.49—Y752n>
7. 東京裁判写真記録 共同通信社提供 小沢武二編 隆生社 昭和23年 <329.49—O989t>
8. 20億円の裁判 ルサフォード・ポーツ 子供マンガ新聞社出版局 昭和23年 <a327—10>

#### 〔第3部〕 東京裁判関係者の手記

9. 東条英機獄中手記 (写)  
「憲政資料室収集文書」のうち
10. 獄窓(橋本欣五郎他寄書)の一部 (写) 「憲政資料室収集文書」のうち
11. 巢鴨日記 続巣鴨日記 重光葵 文芸春秋社 昭和28年 <210.76—Si291s>
12. 木戸幸一日記 東京裁判期 木戸日記研究会(代表 岡義武)編集・校訂 東京大学出版会 昭和55年 <GB566—39>

#### 13. 平和の発見 巢鴨の生と死の記録

花山信勝 朝日新聞社 昭和24年

<a210—115a>

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

### 第I期第20回 明治期の近代スポーツ

昭和58年4月28日(木)～5月24日(火)

わが国の近代スポーツは、明治になって間もなく始まった。相次いで来日した外人教師等によって、陸上競技、漕艇、野球、フットボール、庭球等が紹介され、学校を中心にこれらスポーツが取り入れられた。明治20年代には、ボート、野球の対抗試合も行われるようになるが、30年代になって、初期に導入されたスポーツが定着し、普及し始めるとともに、さらに、新しい各種の西欧スポーツが導入されていった。今回は、明治期のスポーツのうち、体操、陸上競技、野球、庭球、フットボール、卓球、スケート、スキーについて、国内で刊行されたそれぞれ初期の文献をとりあげた。

### 展示資料リスト

#### 〔スポーツ一般〕

1. Outdoor Games. F. W. Strange 著 丸家善七 明16 <YDM108431>  
著者は東大予備門のイギリス人教師、わが国学生スポーツの祖といわれる。スポーツを知らない学生に戸外ゲームをすすめる目的で、ホッケー、フットボール、テニス、クリケット、ベースボール等の球技と各種陸上競技を紹介。英文で記述。
2. 戸外遊戯法 一名戸外運動法 坪井玄道, 国中盛業編 金港堂 明18 <YDM75230>

歐米書を参考とした学校遊戯の解説書。フットボール、庭球、野球等も紹介。スポーツ活動展開の契機となった。

[体操]

3. 樹中体操法図 大学南校編・刊  
明5 <YDM75291>

わが国最初の学校体操の教材。小学校体操の指針となつた。原典はドイツの医学者 D. G. M. シュレーバーの「医療的室内体操」1855。

4. 体操図 東京師範学校編 文部省  
明6 <YDM75584>

明治6年「樹中体操法図」とともに小学校体操教材に採用され、各地で翻刻出版された。原典は、アメリカ人 S. W. メースンの「学校並びに家庭向き体操便覧」1871（展示のものは山形県翻刻版）。

5. 体操書 ベルギュ著 石橋好一訳  
内村耿之介校 文部省 明7—8  
<YDM75583>

フランス人ベルギュの学校体操指導書（1872年版）を翻訳したもの。

6. 体育新書 G. A. リーランド述 久  
松義典記 玉洁堂 明12  
<YDM75558>

明治11年体操伝習所の教師として来日したアメリカ人リーランドの体操を紹介した最初の書。

7. 新撰体操書 G. A. リーランド述  
坪井玄道訳 体操伝習所 明15  
<YDM75475>

リーランドが体操伝習所、東京師範学校等で教授した体操の図解入り解説書。当時の軽体操（普通体操）指導の代表的手引書。

8. 瑞典式体操 日本体育会編 大日本  
図書 明35 <YDM75515>

スウェーデン式体操の最初の紹介者であり、日本体育会の講師だった川瀬元九郎が書いたもの。N. ポスセの「スペシャル・キネシヲロジー」の訳述。

9. 体育之理論及實際 井口あくり〔等〕  
著 国光社 明39 <YDM75561>

元文部省体操遊戯取調委員であつた井口あくり、可児徳、川瀬元九郎、高島平三郎、坪井玄道の共著で、体育の理論と實際とをあわせて書いたものは最も早いものであろう。

- [陸上競技]

10. 競技運動 理論実験 武田千代三郎  
著 博文館 明37 <YDM75182>

競技スポーツの総合的理論書で、単なる技術解説の域を超えた本格的、科学的、スポーツ論書。

11. 風俗画報 第74号 明27.7 東陽堂  
(複製版) <Z11—604>

- [野球]

12. ベースボール術 高橋慶太郎編 同  
文館 明29 <YDM75732>

日本人の書いた最初の野球書。

13. 野球 中馬庚著 前川善兵衛(大阪)  
明30 <YDM75750>

「野球」の名称をつけた最初の書。一高野球初期の解説書であるが、本格的実技指導書として最初のものといえる。

14. 新式ベースボール術 高橋雄次郎著  
四海堂 明31 <YDM75458>

少年向きに、平易に口語體で書いている。用具の製作工程を詳細に説明しているのが特徴。

15. ベースボール及クリッケット 津田  
素彦著 博文館 明32 (内外遊戯全  
書第3編) <YDM75731>

初心者向きに、物語風に記述。付録

でクロッケーにもふれている。

16. 野球規則 水木要輔編 山口高等學校野球部編刊 明32 <YDM75752>

独立したルールブックとして最初のもの。緒言で「斯道諸先輩の著書を参考し、山口における常用規則を斟酌したものなり」とある。

17. 野球年報 第1号 明治35年 伊東卓夫編刊 明35 <YDM75757>

各地の試合、技術解説、明治35年度ルール等のほか写真も多い。同年報は明治39年、大正元年を除き大正4年まで発行された。

18. 野球之友 守山恒太郎著 民友社 明36 <YDM75759>

一高野球部の名投手として名を残した著者の体験にもとづく解説書。

#### [庭 球]

19. ローンテニス 青井鉢男著 美満津商店 明32 <YDM75806>

年少者、女性にも適したスポーツであると述べ、用具・ルール・テニス用語の解説をしている。

20. 庭球 野田孝一(野口圭園)著 博文館 明32 (内外遊戯全書 第6編) <YDM75622>

工科大学の選手としての経験を取り入れた実践的解説書。

21. 実験ローンテニス術 高橋清一編 金昌堂 明33 <YDM75279>

学校の生徒を対象とした初心者向け解説書。著者は東京高師の選手で、当時東京高師は東京高商とともに庭球界の中心であった。

22. ローンテニスの友 東京高等商業學校庭球部編 新橋堂 明36 <YDM75810>

写真も挿入した詳細な実技指導書。

付録に東京の庭球用具店案内あり。

#### [フットボール]

23. フートボールと自転車 三井末彦著 博文館 明33 (内外遊戯全書 第15編) <YDM75714>

前編でラグビーとサッカー、後編で自転車の練習法を解説。目次、本文巻頭には「蹴鞠と自転車」とある。

24. フートボール術 高見沢宗蔵、鳥飼英次郎著 尚栄堂、至誠堂 明35 <YDM75713>

ラグビー、サッカーのほか加奈陀フートボールとして、アメリカンフットボールにもふれている。

25. フートボール 伊東卓夫著・刊 明36 <YDM75712>

ラグビーとサッカーを解説。表紙には美満津商店体操部編とある。

26. アッソシエーションフットボール 東京高等師範学校フットボール部編 鍾美堂(大阪) 明36 <YDM75103>

サッカーだけの解説書としては最初のもの。

27. フットボール 東京高等師範学校校友会蹴球部編 大日本図書 明41 <YDM75705>

みずからの体験、研究に基づいて書かれた最初のサッカー書であろう。付録の「著者の経験」は各ポジションの具体的解説となっている。

28. ラグビー式フットボール 慶應義塾蹴球部編 博文館 明42 <YDM75791>

本格的なラグビー書として最初のもの。英書の翻訳で、当時の唯一のルルブックでもあった。

#### [卓 球]

29. ピンポン 伊東卓夫著・刊 明35

〈YDM75674〉

卓球の紹介者坪井玄道が外国から持  
ち帰った卓球書を参考として編集した  
もの。

30. ピンポン演技法 鳥飼英次郎編 小  
川尚栄堂 明36 〈YDM75675〉  
卓球の初步的解説書。

〔スケート〕

31. 氷滑術初步 山本喜市著 宮坂日新  
堂(上諏訪村) 明42 〈YDM75519〉  
スケートの技術解説書として最初の  
もの。

〔スキー〕

32. スキー術 鶴見宜信著 厚生堂 明  
45 〈YDM75518〉  
最初のスキー指導書。著者は明治44  
年レルヒ少佐の指導を受けた第十三師  
団スキー研究員。

33. スキー写真帖 小熊和助撮影 長尾  
写真館(高田) 明44 第十三師団司令  
部蔵版 〈YDM75517〉

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

### 第Ⅰ期第21回 ケルムスコット・プレ ス本

昭和58年5月26日(木)～6月21日(火)

ケルムスコット・プレス (Kelmscott Press) 本とは、19世紀英國の詩人、美術工芸家、社会改良運動家として知られるウイリアム・モリス (William Morris 1834～1896) による私刊本である。彼はその晩年に、美しく読みやすい書物をめざして印刷工房を創設し、1891年から死後2年の1898年にいたる間に53種66冊の美麗な私刊本作品を遺した（当館では全揃いを所蔵）。

モリスの愛したその旧宅村莊ケルムス

コットの名を冠しただけに、これらの刊  
本は、彼がみずから活字を考案し、用紙、  
印刷インキの選定、挿画、造本にいたる  
まで、すべてがモリスの審美観にもとづ  
いた創作品である。ケルムスコット・プレ  
ス本は、その後の私刊本出版活動の伸  
展をうながし、英國のみならず、米国や  
ヨーロッパ諸国にもつよい影響を与えた  
点では、まさに20世紀における書物工芸  
のルネッサンスをなすものとして位置づ  
けられよう。

### 展示資料リスト

#### 〔概要〕

1. Gothic Architecture. W. Morris. 1893. 〈WB41-18〉  
「ゴシック建築—美術工芸展覧会協会講演」。モリスの工芸観を示す好著。
2. News from Nowhere. W. Morris. 1893. 〈WB41-12〉  
「理想郷よりの手紙」。口絵にモリス  
旧宅図 (Kelmscott Manor) がある。  
ハマースミスの印刷工房の名称はこの  
名に由来する。
3. Poems by the Way. W. Morris. 1891. 〈WB41-2〉  
「偶成詩」。印刷工房のマークが最初  
に用いられた。
4. The Story of the Glittering Plain. W. Morris. 1891. 〈WB41-1〉  
「燐然たる平原物語」あるいは永生不  
死の國物語」。プレス最初の刊本。
5. A Note by William Morris on his Aims in Founding. W. Morris. 1898. 〈WB41-53〉  
「ノート 書局設立趣旨 書局小史  
印刷書目解説」。コッカレスの「印刷工  
房小史」と出版書目の解説等を収載す

る。

6. The Works of Geoffrey Chaucer.  
1896. <WB41-41>

エリス編「チョーサア作品集」。プレス刊本のうちもっとも著名かつ優美とされる刊本。扉はモリス画、挿絵はバーン・ジョーンズによる。

[特徴]

・活字の三字体

字体の名称は、その活字を使い印刷した刊本の書名から採られた。最初に「ゴールデン体」(Golden type)と呼ばれるローマン字体、ついで「トロイ体」(Troy type)と称されるゴシック字体、さらにこのトロイ体を小さく改良した「チョーサー体」(Chaucer type)が作製された。

7. The Golden Legend. Voragine.  
1892. <WB41-7>

「黄金伝説」 ゴールデン体。

8. The Recuyell of the Historyes of  
Troye. R. Lefevre. 1892.  
<WB41-8>

「トロイ戦史抄」 トロイ体。

9. Utopia. T. More. 1893.  
<WB41-16>

「ユウトピア」 チョーサー体。

10. Psalmi Penitentiales. 1894.  
<WB41-31>

エリス編「ざんげ讃美歌」。三方の縁(ふち)飾りを使用。

11. The Love Lyrics and Songs of  
Proteus. W. S. Blunt. 1892.  
<WB41-3>

「恋愛歌集 愛のソネット拾遺詩集」。朱刷りの花文字を使用。

・むすび紐の色々

12. The Nature of Gothic. J. Ruskin.

1892. <WB41-4>

13. The Defence of Guenevere. W.  
Morris. 1892. <WB41-5>

14. A Dream of John Ball. W. Mor-  
ris. 1892. <WB41-6>

15. Maud, A Monodrama. A. T.  
Tennyson. 1893. <WB41-17>

16. Sonnets and Lyrical Poems. D.  
G. Rossetti. 1894. <WB41-22>

(1.~11.の邦訳書名は関川、フランクリン共著『ケルムスコット・プレス図録』による)。

[受容]

工芸家としてのモリスと、そのケルムスコット・プレス本の紹介は、富本憲吉の訪英印象記(明治45年発表 17.参照)が最初とされるが、プレス刊本そのものの将来と、その系統的な紹介はずっと後年である。昭和4年に東京帝国大学附属図書館へ英國政府から贈られて来た「チョーサア作品集」ほかにより知られるようになった(18.参照)。柳宗悦の民芸運動や、その協助者としての寿岳文章による本格的な紹介、さらには昭和初期、急速にひろがりを示した愛書趣味の伸展としての、私刊本活動などの中で、モリスとそのケルムスコット・プレスの壮大な事業は、つねに憧憬の的であつた。

17. 美術新報 11卷 4, 5号 明治45年  
2, 3月 画報社 富本憲吉「ウイリアム・モリスの話」(上, 下) <雑33-7>

美術工芸家モリスの紹介文としてもっとも早いもの。

18. イギリス印刷史展覧会 東京帝国大  
学附属図書館 [昭和4] <UP72-40>  
大正12年被災の図書館復興に際し英  
国から贈られた図書の展示目録。ケル

- ムスコット・プレスがまとまってわが国に将来、紹介された最初である。
19. モリス記念論集 モリス生誕百年記念協会著 神戸 川瀬日進堂書店 昭和9 <669-52>
20. モリス書誌 キリアム・モリス誕生百年祭記念文献絵画展覧会目録 東京 キリアム・モリス研究会(代表 大槻憲二) 昭和9 <672-23>
- 19.20.共に昭和9年のモリス生誕百年を祝う行事の記念出版。19.は関西(京都、西宮)での講演集。寿岳文章「書物工芸家としてのモリス」、富田文雄「文献より見たる日本に於けるモリス」、「日本モリス文献目録」等を収録。
- 20.は東京、丸善の展示会(非展示文献を含む) 目録。
21. 遊牧記 1—5冊 昭和4年8—12月 遊牧印書局(4冊) <雑8-105>  
日夏耿之介鑑修 平井功(飛来鴻)纂輯の書物雑誌。570部限定。大槻憲二「モリスの美書趣味」(1号)。  
同上(訳)「ケルムスコット・プレス創立の主旨」(2号)が掲載されている。
22. 書物 寿岳文章訳編 京都府向日町 寿岳文章 昭和11 200部限定 <707-100>  
限定私家版向日庵本(昭和7~22年の間に刊行)の1冊。  
コブデン・サンダスン「完全な書物」、エリック・ギル「書物」、寿岳文章「装本について」三篇を収録。
23. 理想の書物 ウィリアム・モリス著 庄司浅水訳・解説 細川書店 昭和26 500部限定 <020-cM87r-S>  
W・モリス「理想の書物」「印刷について」「ケルムスコット・プレス設立の趣旨」三篇を収録。1951年度装幀賞受

賞。(後掲29.に再収あり)

[近年における関係図書]

24. ウィリアム・モリス ラディカル・デザインの思想 小野二郎 中央公論社 昭和48 (中公新書) <GK467-9>
25. ウィリアム・モリスとその仲間たち アールヌーボーの源流 岡田隆彦編著 岩崎美術社 昭和53 <KC521-124>
26. 装飾芸術 ウィリアム・モリスとその周辺 小野二郎 青土社 昭和54 <KC521-151>
27. ケルムスコット・プレス 八木佐吉 日本古書通信社 昭55 (古通豆本) <Y99-483>
28. ウィリアム・モリスのこと 山本正三 相模書房 昭和55 (相模選書) <KS124-36>
29. 定本 庄司浅水著作集 書誌篇 第4巻 美しい書物 出版ニュース社 昭和56 限定版 <UM11-58>
30. ケルムスコット・プレス図録 関川左木夫、コーリン・フランクリン著 雄松堂書店 昭和57 <UM31-3>
- ~~~ \* ~~ ~~~ \* ~~ ~~~

**第Ⅰ期第22回 ロシアの内陸アジア探検の記録**

昭和58年6月23日(木)~7月26日(火)

今年から数えて120年前の10月、中央アジアの探検家コズロフが生まれた。モスクワ西方スモレンスク州ドウヒョウスツヒナがその生地である。蒙古北部ケンタイ山脈山中で、いわゆるノイン・ウラ古墳群を発掘、212基の匈奴の墓を発見、また別にゴビ砂漠エツイン・ゴル河畔でハラ・ホト遺跡を発掘、それぞれ匈奴と西夏研究史上不滅の功績を上げ、今世紀考

古学史上の快挙と称えられている。

今回ここでまとめたりストは、ロシアの誇る中央アジア探検家の中、コズロフと師プルジェヴアリスキーを中心に、当館所蔵本を一覧したものである。これに両者と同時代人で共に19世紀末活躍したポターニン、グルム・グルジマイロ、ロボロフスキイの探検紀行も紹介する。

1830年イギリスで王立地理学協会が誕生、遅れて1845年ロシア帝国地理学協会が組織された。19世紀後半から20世紀初めにかけて、中央アジア探検の黄金時代であったが、英、露二大強国がその地で政治的にも覇を競ったのと対応している。所蔵本の中、露文図書は主として播磨橋吉氏旧蔵書が、他は深田久弥氏旧蔵書が占める。

#### 展示資料リスト

A) プルジェヴアリスキー、N.

Пржевальский, Николай Михайлович。  
(1839.4.12~1888.11.1)

1867~69 沿海州(ウスリー)探検(V)

1870~73 第1回中央アジア探検(I)  
(蒙古探検)

1876~77 第2回中央アジア探検(II)  
(ロブ・ノール探検)

1879~80 第3回中央アジア探検  
(III) (第1回チベット探  
検)

1883~85 第4回中央アジア探検  
(IV) (第2回チベット探  
検)

1888.8.18 第5回中央アジア探検出  
発。

1888.10.20 イシク・クル湖畔カラ  
コルで病没。

#### I—a

Монголія и страна тангутовъ ; трехлѣтнее путешествіе въ восточной нагорной Азіи. Санктпетербургъ, Изд. Имп. русского географического об-ва, 1875—76. 2v. plates (col. illus.) 2 fold. col. maps. 27cm. <915.17—P973m>  
(蒙古人・タングート人の国)

#### II—a

От Кульджи за Тянь-Шань на Лоб-Нор.  
Москва, ОГИЗ/Гос. Изд-во Географической  
Лит-ры, 1947. 154p. illus.,  
ports., 1 fold. col. map. 27cm.

<GE671—180>  
(クルジャから天山を越えてロブ・ノ  
ールへ)

#### III—a

Изъ Зайсана черезъ Хами въ Тибетъ и  
на верховья Желтой рѣки. С.-  
Петербургъ, Изд. Имп. русского геогр.  
об-ва, 1883. 473p. plates, 2 fold,  
col. maps. 30cm.

<915.1—P973i><915.15—P973i>  
(ザイサンからハミを経て西藏と黃  
河上流へ)

#### IV—a

Отъ Кяхты на истоки Желтой рѣки,  
изслѣдованіе сѣверной окраины Тибета  
и путь черезъ Лобъ-Норъ по Бассейну  
Тарима. С.-Петербургъ, Изд. Имп.  
русского геогр. об-ва, 1888. 536p.  
illus., ports., 3 fold. col. maps.  
28cm. <915.1—P973o>

(キャフタから黄河源流へ。西藏北辺  
の探検とロブ・ノール経由タリム流  
域への道)

Kozlov, Petr Kuz'mich.

Въ Сердцѣ Азіи; памяти Н. М.

Пржевальского, очеркъ. С. П. Б., П. П. Сойкинъ, 1914. 32р. illus. (part col.) fold. col. map. 26см. (Знаніе для всѣхъ) <923.947—P973k> (アジアの心臓部で)

B) コズロフ, Р.

Козлов, Пётр Кузьмич. (1863.10.15 ~1935.9.26)

1883~85 プルジェヴァリスキイの第4回中央アジア探検に参加。

1889~90 プルジェヴァリスキイの第5回探検を引き継いだ M. V. ペフツォフの中央アジア探検に参加。

1893~95 V. I. ロボロフスキイの中央アジア探検に参加。

1899~1901 コズロフの第1回中央アジア探検 (蒙古・チベット探検)。 (I)

1907~09 第2回中央アジア探検 (蒙古・四川探検)。 (II)

1923~26 第3回中央アジア探検 (ケンタイ・ハンガイ探検)。 (III)

I—a

Монголія и Камъ. Труды Экспедиції Императорского русского географического общества, совершенной въ 1899 —1901 гг. подъ руководствомъ П. К. Козлова. С.-Петербургъ, Изд. Имп. русскаго геогр. об-ва, 1905—8. 6v. plates, maps. 30см.

<915.17—K88mk>

(蒙古とカム)

Том 1, часть 1: По Монголії до границь Тибета. 1905. часть 2:

Камъ и обратный путь. 1906.

Том 2, вып. 1: Мои пути по Монголії и Каму. 1907.

Том 3, вып. 1: Астрономическая навлюденія. 1907.

Том 7, вып. 1: Arthropoda. 1908.

Том 8, вып. послѣдній: Діатомомъя водоросли Тибета. 1906.

I—b

Монголія и Кам ; трехлетнее путешествие по Монголии и Тибету, 1899—1901 гг.

Под ред. и со вступительной статьей В. П. Козлова. 2. изд., сокр. Москва, Гос. изд-во геогр. лит-ры, 1947. 437р. illus., port., maps. 27см.

<GE471—39>

II—a

Монголія и Амдо и мертвый город Харахото ; экспедиция Русского географического общества в нагорной Азии. Москва, Гос. изд-во, 1923. 677р. illus., maps. 27см.

<915.174—K88m><915.17—K88m>

(蒙古とアムドと死の都ハラ・ホト)

II—b

Монголія и Амдо и мертвый город Харахото. [Под ред. и с примечаниями Б. В. Юсова, вступ. статья В. П. Козлова. 2., сокр. изд. Москва] Гос. изд-во геогр. лит-ры, 1947. 328р. illus. 27см.

<GE471—40>

III—a

Краткие отчеты экспедиций по исследованию Северной Монголии в связи с Монголо-тибетской экспедицией. Ленинград, [Изд-во Академии Наук СССР] 1925. 58р. illus., map.

34cm. <913.5173—K88k>

(北蒙古探検報告)

III—b

Краткий отчет о Монголо-тибетской экспедиции Государственного русского географического общества, 1923—1926 гг. ленинград, Изд-во Академии наук СССР, 1928. 47р. illus. 25cm. (Академия наук СССР. Комиссия по научному исследованию Монгольской и Танну-Тувинской Республик. Северная Монголия, 3)

<915.174—K88k>

(ソ連地理学協会蒙古・西藏探検報告)

III—c

Путешествие в Монголию 1923—1926; дневники подготовленные к печати Е. В. Козловой. Москва, Гос. изд-во геогр. лит-ры, 1949. 233р. illus., port. 23cm. (Записки Всесоюзного географического общества. Новая серия, Т. 7) <GE471—49>

(蒙古旅行—1923~1926)

Тибет и Далай-лама. Петербург, 1920. 100р. illus., ports. 30cm.

<915.15—K88t>

(チベットとダライ・ラマ)

C) ポターニン, G.

Потанин, Григорий Николаевич. (1835. 10.3~1920.6.30)

1863~64 ストルーヴェ中央アジア探検隊に参加。

1876~77 中国北部, 西藏東部を探検  
(a)

1879~80 同上。

1884~86 蒙古中央部を探検 (b, c)

1892~93 同上。

1899 大興安嶺を探検。

C—a

Очерки съверо-западной Монголії. Результаты путешествія, исполненного въ 1876—1877 годахъ по порученію Императорскаго русскаго географическаго общества. С.-Петербургъ, Тип. В. Безобразова, 1881—83. 4v. plates, fold. maps. 25cm.

<915.173—P859o>

(北西蒙古概論)

Вып. 1: Дневникъ путешествія и материалы для физической географіи и топографіи С. З. Монголії. 1881.

Вып. 2: Материалы этнографические. 1881.

Вып. 3: Дневникъ путешествія и материалы для физической географіи и топографіи С. З. Монголії. 1883.

Вып. 4: Материалы этнографические. 1883.

C—b

Тангутско-Тибетская окраина Китая и Центральная Монголія. Путешествіе Г. Н. Потанина, 1884—1886. С.-Петербургъ, Изд. Имп. русскаго географическаго об-ва, 1893. 2v. plates (illus. ports.) 32cm.

<915.1—P859t>

(中国のタングート・西藏辺境と蒙古中央部)

D) グルム・グルジマイロ, G.

Грумм-Гржимайло, Григорий Ефимович. (1860.2.5~1936.3.3)

1884~87 パミール地方を調査。

1889~90 青海・甘肅及び天山北路を

探検。

1903~14 西蒙古・ウリヤンハイ(ト  
ウヴァ)地方を探検 (a)

1908 アムール川流域探検。

D-a

Западная Монголия и Урянхайский край.  
Ленинград, Гос. русское географическое общество, 1914—30. 4v.  
26cm. (Издание Ученого комитета  
Монгольской Народной Республики)  
<915.17—G887z>

(西部蒙古・ウリヤンハイ地方)

Том 1: Описание природы этих стран.  
С.-Петербург., 1914.

Том 2: Исторический очерк этих стран  
в связи с историей Средней Азии.  
Ленинград, 1926.

Том 3, вып. 1: Антропологический и  
этнографический очерк этих стран.  
Ленинград, 1926.

вып. 2: Антропологический и  
этнографический очерк этих стран.  
Торговая и колонизаторская в них  
деятельность китайцев и русских.  
Дополнения и поправки. Ленинград,  
1930.

E) ロボロフスキイ, V.

Роборовский, Всеволод Иванович.  
(1856.4.26~1910.7.23)

1879~80 ブルジェヴァリスキイの第  
3回中央アジア探検に参  
加。

1883~85 同じく第4回中央アジア探  
検に参加。

1889~90 ペフトオフのチベット探検  
に参加。

1893~95 ロシア地理学協会の委嘱で

中央アジアを探検。(a)

E—a

Путешествие в Восточный Тянь-Шань и в  
Нань-Шань ; труды Экспедиции Русского  
географического общества по  
центральной Азии в 1893—1895 гг.  
Москва, Гос. изд-во географической  
лит-ры, 1949. illus., fold map.  
27cm. <M76—19>  
(東部天山・南山探検紀行)

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第I期第23回 江戸の朝顔—文献にみ  
る江戸朝顔の種々相—

昭和58年7月28日(木)~8月23日(火)

朝顔の原産地は、熱帯アジア・ヒマラ  
ヤ山麓高原地帯といわれている。わが国  
には奈良時代に渡来し薬用として栽培さ  
れ、その種子(牽牛子=けにごし)を下剤・利尿剤として用いた。日本最古の本  
草書『本草和名』(延喜18年(918)成立  
推定), また,『延喜式』(延長5年(927)  
成立)典薬寮の部に「牽牛子」の名が見  
える。朝顔の原種は浅葱色(薄青色)の  
花で, 古今集以来盛んに歌や詩によまれ  
たが, 植物としては渡来後千年近くの間,  
何の変化も現われなかった。

観賞用に栽培されるのは江戸時代に入  
ってからで, 園芸植物とその培養法を説  
いた最初の園芸書『花壇綱目』(寛文4年  
(1664)序, 写)は, 朝顔をはじめて花  
卉として扱い, 浅葱色の原種のほか, 白  
色が記されている。元禄時代には園芸も  
盛んになり, 当時の刊本『昼夜重宝記』,  
『花壇地錦抄』,『花譜』には, 紫, 赤, 紺  
色の朝顔が現われる。その後, 白と紺の  
咲分け, 吹雪・覆輪などの模様花, 牡丹

咲・桔梗咲などの変わり咲が出現するが、文化・文政年間に至り朝顔の栽培・観賞は大流行となった。天保年間は、江戸の大火灾や大飢饉、また、天保の改革があり、一時衰えたが、嘉永・安政年間には再び流行を極めた。この二度の流行期に数多くの品種が作られ、江戸や大阪では花合せ（品評会）が盛んに催されて変わり咲、変わり葉などの珍花奇葉が出品され、一枚刷りの番付が出された。また、朝顔の図説が多数発刊された。

今回は、当時刊行された朝顔の専門書を中心に、関連資料を展示して、文献にみる江戸朝顔の種々相を紹介する。

「白井文庫」、「伊藤文庫」、「榊原文庫」は、白井光太郎、伊藤圭介・篤太郎、榊原芳野の各旧蔵書。

#### 展示資料リスト

1. 朝顔通 壺天堂主人著、森春溪画 文化12(1815)刊 2冊 「榊原文庫」 <199—143>
2. 牽牛品類図考 峰岸正吉(竜夫)著、丹羽桃溪画 文化12(1815)刊 1冊 「伊藤文庫」 <特7—346>
3. 朝鮮珍花薈集 峰岸正吉(竜夫)著、丹羽桃溪、三木探月斎画 文化12(1815)刊 1冊 <214—3>
2. 牽牛品類図考の異版。
4. 朝顔叢 上 四時庵形影著、琴鱗画 文化14(1817)刊 1冊(下巻欠) 「白井文庫」 <特1—2377>  
大田南畝の歌2首(遠桜山人)と「題言」(杏花園主人)がある。
5. 朝顔叢 水谷豊文手写 1冊(豊文朝顔叢書の内) 「伊藤文庫」 <特7—614>
4. 朝顔叢上下巻の抄写。

6. 朝顔図考 四時庵形影著、琴鱗画 写 2冊(合1冊) <YD1—239>
4. 朝顔叢上下巻の写。
7. 朝顔譜 興住秋水著、濃淡斎洞水画 蜀山人(太田南畝)序 文化15(1818)刊 1冊 「榊原文庫」 <182—30>
8. 朝顔水鏡 前編 興住秋水著、濃淡斎洞水画 伊沢信伝(蘭軒)序 文政元年(1818)刊 1冊 「榊原文庫」 <198—45>  
蘭軒の「序」、「前編目録」に続いて「後編目録」、「続編目録」とあり、それぞれ近刻とあるが未刊と思われる。
9. 牽牛品 峰岸正吉(竜夫)著、丹羽桃溪画 順山陽、富士谷御杖序 文政2(1819)刊 2冊 「白井文庫」 <特1—2512>
10. 朝顔花併 穂叢園著 嘉永6(1853)刊 <199—259>
11. 朝顔三十六花撰 万花園撰、服部雪斎画 杏葉館(鍋島直孝)序 千種有功、小林歌城題詠 嘉永7(1854)刊 1冊 <67—203>
12. 三都一朝 成田屋留次郎著、田崎草雲画 嘉永7(1854)刊 3冊 <183—368>  
江戸、京、大阪三都の名花を集めたもの。著者は下谷坂本入谷の植木屋。
13. 兩地秋 成田屋留次郎著 安政2(1855)刊 1冊 <183—369>
14. 都鄙秋興 幸良弼著、野村文紹画 成田屋留次郎板 安政4(1857)刊 3冊 <183—366>
15. 朝閑々美 東雲亭著 葛通斎文岱画 文久元(1861)刊 1冊 「白井文庫」 <特1—2915>
16. 朝顔名花集 群芳園撰 文化14(1817)刊 1枚(豊文朝顔叢書の内)

- 「伊藤文庫」 <特7-614>
17. 〔朝顔花合〕 安政6(1859)刊 1枚  
(植物銘録鑑の内) 「伊藤文庫」  
<特7-652>  
安政6年7月18日 浅草黒船街樋寺に於て開筵された花合せの番付。
18. 牽牛子攷 森立之著 嘉永6(1853)  
成立 手稿本 1冊 「白井文庫」  
<特1-3385>
19. あさかほ花譜 [附 紅葉譜] 写  
1冊 <200-33>
20. 牵牛花真写 写 1冊 「伊藤文庫」  
<特7-281>
21. 豊文朝顔図譜 水谷豊文著 手稿本  
1帖 「伊藤文庫」 <特7-678>
22. 牵牛花集 水谷豊文著 手稿本 1冊  
(豊文朝顔叢書の内) 「伊藤文庫」  
<特7-614>
23. 牵牛花百首 一柳春門(村田春門)著  
文政7(1824)刊 1冊 「白井文庫」  
<特1-461>  
当時流行の朝顔の花名を詠んだ歌集。
24. 朝顔百首狂歌集 唐樹園南陀羅(正宗雅敦)編 文政13(1830)刊 1冊  
「伊藤文庫」 <特7-286>  
全国各地の朝顔の狂歌百首を選んだもの。
25. あさがほ記 谷崎永律著 稲葉登栄  
一序, 壇保己一跋 写 1冊 「伊藤文庫」  
<特7-280>  
安永4(1775)刊本の写。
26. 植物印葉図 伊藤謙著 印葉 1冊  
「伊藤文庫」 <特7-22>
27. 古今要覽稿 屋代弘賢著 文政4—  
天保13(1821—1842)成立 草木部9,  
10 あさがほ 写 2冊(全303冊の内)  
<YD1-379>
28. 本草図譜 岩崎常正(灌園)著 文政  
11(1828)成立 写 卷26 蔓草類 2  
1冊(全92冊の内) 「田安家旧蔵」  
<に-25>
29. 草木図説 前篇 草部4 飯沼懲斎  
著 安政3(1856)刊 1冊(全20冊の内) 「伊藤文庫」 <特7-165>
30. 江戸遊覧花曆 岡山鳥著, 長谷川雪  
旦画 天保8(1837)刊 合1冊 「白  
井文庫」 <特1-1952>  
初版は文政10年(1827) 「河鍋暁斎  
旧蔵」, 卷2の22丁裏書入れの戯画は暁  
斎か。
31. 嘉永二己酉花曆 1冊 「白井文庫」  
<特1-1955>
32. 嘉永六年癸丑花曆 1冊 「白井文  
庫」 <特1-1957>
33. 朝顔に雨蛙 北斎画(複製) 1枚  
(『復元浮世絵大観 9 北斎』の内  
集英社 昭和53年) <YP14-446>

第Ⅰ期第24回 スペースシャトルとス  
ペースラブ計画  
昭和58年8月25日(木)~9月30日(金)

NASA(米国航空宇宙局)のスペースシャトル計画は、1981年に打ち上げられた「コロンビア号」の成功によって実用化の第一歩を踏み出した。1990年代を目標にスペースシャトルを活用した宇宙基地の建設も企画されているという。又、今秋打ち上げ予定のスペースシャトルでは、各国(日本の参加も決っている)の協力による国際的なスペースラブ計画が組み込まれている。今年はNASA設立25周年にもあたるので、当館が所蔵するスペースシャトル、スペースラブ関係の

資料の中から、NASA の刊行物を中心にして展示することにした。

#### 展示資料リスト

1. Spacelab ; Erforschung und Nutzung des Weltraums. Bonn, Bundesministerium für Forschung und Technologie, 1975. 69p. <NC161-113>
2. The Space Shuttle at Work. Howard Allaway. Washington, NASA, 1979. 76p. (NASA EP-156, NASA SP-432) <NC161-171>
3. Aboard the Space Shuttle. Florence S. Steinberg. Washington, NASA, 1979. 32p. (NASA EP-169) <Y131>
4. Proceedings of the 17th Space Congress, a new era in technology, Cocoa Beach, Fla, April 1980. Cape Canaveral, Fla. Canaveral Council of Technical Societies, 1980. 394p. <NC161-153>
5. Space Shuttle. David Baker. New York, Crown, 1979. 72p. <NC161-182>
6. Using Space - Today and Tomorrow ; Proceedings of the 28th International Astronautical Congress, Prague, Sept. 1977. Oxford, Pergamon, 1978. 26p. <NC161-142>
7. Skylab EREP Investigations Summary. Washington, NASA, 1978. 386p. (NASA SP-399) <NC161-150>
8. Skylab, Classroom in Space. Lee B. Summerlin ed. Washington, NASA, 1977. 182p. (NASA SP-

- 401) <NC161-151>
9. Skylab ; a Guidebook. Leland F. Belew and Ernst Stuhlinger. Washington, NASA, 1973. 245p. (NASA EP-107) <NC161-87>
10. Skylab ; a Chronology. Roland W. Newkirk and others. Washington, NASA, 1977. 458p. (NASA SP-4011) <NC161-140>
11. Skylab Explores the Earth. Washington, NASA, 1977. 517p. <NC161-152>
12. NASA Activities, Vol. 13, No. 7, 1982. Washington, NASA. <Z53-S147>
13. Spacelab Users Guide. Washington, NASA, 1976. 20p. <Y131>
14. Quark, Vol. 1, No. 5, 1982. 講談社 <Z14-922>
15. 宇宙の実験室 スペースラブからスペースシャトルへ 大林辰蔵, 江尻全機訳 朝倉書店 1979. 159p. <NC161-72>
16. Newton, Vol. 3, No. 7 1983. 教育社 <Z14-894>
17. Sciencepedia No. 1 1982. 旺文社 <Z14-916>
18. Omni. 日本版 Vol. 2, No. 3 1983. 旺文社 <Z14-917>

第Ⅰ期第25回 酸性紙と書物の劣化  
昭和58年11月10日(木)~12月24日(土)

展示リスト作成せず

第Ⅰ期第26回 江戸・明治期の「からくり・手品」本  
昭和59年1月9日(月)～2月21日(火)

手品・手妻は江戸時代初期においては曲芸と一緒に大道で演じられていたが、元禄から寛政にかけては、独立した演芸となり多くの名人が出た。手品の解説書もこの時代に出版されたものがもっともすぐれている。

手品が手先の芸なのに対し「からくり」は道具仕掛けのもので、有名なのは寛文年間に大阪で興行された「竹田のからくり」で、これを中心として多くのからくりが考案され、解説書も出版された。明治時代になり文明開化とともに欧米の手品(奇術)が入り、日本の手品は西洋奇術に移っていった。この時期、欧米奇術解説書が翻訳され、上演された。今回の展示は、この江戸・明治の主な手品、からくり本を紹介する。

#### 展示資料リスト

- 神仙戯術 陳眉公著 河南四郎左衛門(大坂)刊 正徳5年(1715) 1冊  
(復刻版) <W186-4>  
手品の種明し本としては我国最古のもので、中国の手品本の訳、内容は20種の手品を漢文で記し、和訳を付してある。
- 機訓蒙鑑草(からくりきんもうかがみぐさ) 多賀谷環中仙著 西村市郎右衛門(武陽)他刊 享保15年(1730) 2冊 <YD京-60>  
水からくり等仕掛け物28種を記す。当時のからくりの文献として貴重なもの。川枝豊信の図は当時の風俗を描い

ておもしろい。

- さんけ袋 多賀谷環中仙著 初版  
版元不詳 刊年は享保年間か、2冊 <YD京-59>

内容は室内遊びの本であるが、中に手品の種明しを含む。

- 唐土秘事海(もうこしひじのうみ)  
多賀谷環中仙著 初版 版元も刊行も  
不詳(享保か) 2冊 <YD京-68>  
仕掛け物19種を解説、上巻の目録の絵  
で唐人が演じている図が他書にない特  
徴である。
- 神仙秘事睫(しんせんひまつげ)  
著者、刊年不詳(享保か) 柏原屋与市  
(大坂)刊 2冊 <191-365>  
15種の小手先の手品を解説、「天狗の  
豆かくし(小豆割り)」は現代でも行な  
われている傑作で詳細な解説がされて  
いる。
- 勘者御伽双紙 中根法船著 平安書  
林(京都)他刊 寛保3年(1743) 3冊  
<201-164>

内容は主として数学パズルである  
が、言葉のサインや動作のサインによ  
って客のふれたものをあてる靈感術の  
解説がある。

- 放下筌 平瀬輔世著 千草屋勘右衛  
門刊 明和元年(1764) 3冊 <YD京-74>

本書は小手先手品の解説書としては  
江戸期における最高のもので「品玉」  
(カップと玉)「金輪の曲」(リング  
リング)の解説はすぐれている。

- 物覓秘伝 清水先生口授 八尾清兵  
衛(京都)刊 明和8年(1772) 1冊  
<103-206>

連鎖式の記憶術の解説で、現在行な  
われている記憶術と原理は同じもので

ある。

9. 盂席玉手妻 離夫著 板元不詳 寛政11年(1799) 1冊 <191—371>

33種の座敷手品の解説がある。もっとも有名なのは「葛籠へはいり紐をむすばせて封をつけて中なる人自由にぬけ出る伝」であり、外に静電気応用の手品も解説してある。

10. 珍曲たはふれ草 著者不詳(続たはふれ草によれば鬼友) 菱屋治兵衛(京都)刊 寛政7年(1795) 初版の年代不詳 1冊 <189—394>

大小奇術38種を解説、「花吹雪の街」「縄切術」「笹の葉を鰐にすること」など有名。

11. 機巧図彙(きこうずい) 細川半蔵著 板元不詳 寛政8年(1796) 3冊 <215—171>

内容は、従来のカラクリ人形の製作法を詳細に解説してある。有名なのは「茶運び人形」である。首巻に時計の製作法がある。

12. 品玉伝授種 平瀬輔世著 塩屋喜助刊 寛政8年(1796) 5冊<191—373>

これは前記の『放下釜』と『天狗通』を合体したもので、『天狗通』は「枕の曲」「鉢まわし」「つなわたり」などの曲芸のタネ明し、幻燈機等のからくり、銭の手品など解説してある。

13. 秘事百撰 三篇 米百斎著 伊丹屋善兵衛刊 慶應3年(1867) 1冊 <199—350>

内容は60種の手品、秘法の類を収む、智徳斎著の『秘事百撰』『秘事百撰 後篇』に似せてつくったもの。「からの鳥籠に玉子を入れ雀にかえる伝」など本格的な奇術の仕掛けの解説がある点、前2著と異なる。

明治期の手品は西洋手品が中心となつたため、種明し本の多くは「西洋」の文字を付して出版している。しかし、内容は江戸期の手品と欧米の解説書から取った手品を混ぜたものがほとんどである。

14. 西洋手品秘伝(日本大評判) 大阪佐々木吉太郎 明治13年(1880) <YDM76447>

表紙が当時の西洋手品師の風俗を描いている。

15. 新作西洋手品種本 2号 永島福太郎著 東京 児玉弥七 明治14年(1881) <YDM76400>

内容37種のうち西洋手品9種、このなかに当時欧米で大評判をとった、英國のトーマス・トービンの「首切り術」や「人体浮揚術」などの大舞台の奇術が解説してある。

16. 手品種の封 大阪 富士政七 明治15年—17年(1882—84) 4冊 <YDM76487>

大部分は江戸期のものだが、一部「トランプ当て」「せり上がるトランプ」「コインの出る棒」など欧米のものの解説あり。

17. 西洋手づまの種 前篇 歸天斎正一、北庭筑波考 チレメチス訂 横浜守屋喜代次 明治15年(1882) <YDM76455>

これは明治初期における本格的な西洋手品の解説書である。

18. [絵本てじな] 清水重之等編刊 明治15年—17年(1882—84) 5冊 <YDM76274>

19. 人身電気の図面 一名、コックリサンの理解 小島百三編 大阪 小島百三 明治19年(1886) <YDM76403>

これは当時大流行した、心霊術の「コックリサン」の方法を図解したもの。  
20. 西洋手品種本 奇々妙術 大阪 大館利一 明治20年(1887)

〈YDM76442〉

21. 西洋手品種本 絵本 京都 中村浅吉 明治20年(1887) 〈YDM76443〉

22. 西洋手品不思議之変画<sup>かわりえ</sup> 島田兼三郎編刊 明治20年(1887) 〈YDM76449〉

これは本自体がトリックになっているもので、開き方で絵が変化するようになっている。

23. 肚言術 ロバート・ガントニー著 雪蓄生訳 東京 春陽堂 明治39年(1903) 〈YDM76506〉

腹話術の解説書で、发声のテクニック、人形の構造、演出法を詳細に記してある。

明治時代の手品解説書に大きな影響を与えたのは英國の弁護士でジャーナリストである奇術研究家 Angelo J. Lewis が Professor Hoffmann の筆名で著した「Modern Magic」(1874) である。これが出版後、まもなく日本に伝えられた。これをもとにした本で代表的なものは次の4点である。

24. 西洋魔法鏡 卷の1 ホフマン著 本田浜次郎訳 横浜 鼎家 明治17年(1884) 〈YDM76458〉

これは欧米手品の訳本としては最初のもので、活版印刷を用いている。内容19種。

25. トランプ手術 西洋骨牌 奥田あさ編 東京 小説館 明治22年(1889) 〈YDM76507〉

トランプ手品の項の部分訳、トラン

プ手品の解説書としては最初のもの。また「手術」を手品、奇術の意に用いているのも珍しい。

26. 西洋魔術大全 ホフマン著 高橋兵衛訳 山田都一郎記 大阪 陰山助四郎 明治24年(1891) 〈YDM76457〉

本書は部分訳なるも、多くの解説がのっている本格的な翻訳書である。

27. 魔術 渋江保篇 東京 博文館 明治26年(1893) 2冊 〈YDM76567〉

本書は「Modern Magic」を主体にし、それ以外に「More Magic」をはじめ何冊かの欧米の手品解説書から約200種を訳したもので、明治期の手品解説書としては、昇天斎一旭(田中仙樵)の「西洋奇術自在」(明治36年)と並ぶ名著である。

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第I期第27回 明治・大正・昭和前期  
の政治漫画

昭和59年2月23日(木)～4月24日(火)

明治の漫画は、江戸時代の浮世絵、木版戯画の伝統と、欧米漫画の影響の上に成立した。明治期、政治漫画は自由民権運動の思想啓蒙、藩閥政府への批判といった役割を担った。大正時代以降、漫画は百花繚乱の時代を迎える。プロレタリア漫画も登場したが、太平洋戦争の開始とともに、政治漫画は風刺性を失った時局漫画、決戦漫画の色彩を強めた。

展示資料リスト

1. ジャパン・パンチ [JAPAN PUNCH] (文久2年[1862]創刊)  
イギリス人チャールス・ワーグマンが、母国の『パンチ』誌に模して横浜

- 居留地で発行。日本で最初の漫画雑誌。  
 〈Z51-D505〉〈F-202〉
2. 日ポン地 (明治37年創刊)  
 日露戦争期、対露アジ漫画が流行したが、その中の代表的な漫画雑誌。『風俗画報』の臨時増刊として刊行。  
 『風俗画報』 〈Z11-617〉〈雑23-8〉
3. 東京ハーピー (明治39年『ハーピー』として創刊)  
 『東京パック』の成功に刺激されて創刊された雑誌のひとつ。主幹は橋本邦助、和田三造。後に『パック』と改題。  
 『ハーピー』 〈雑13-4〉  
 『東京ハーピー・パック』 〈雑13-4イ〉
4. ビゴー精選画集 清水勲編著 美術同人社 昭和47年 〈W166-5〉
5. 当世風俗五十番歌合 池辺義象著  
 浅井忠画 吉川半七 明治40年 2冊  
 〈YDM86355〉
6. 東京パック (明治38年創刊)  
 石版多色刷を多用し、風刺の冴えた斬新な漫画雑誌。北沢楽天創刊。  
 〈Z11-1499〉〈雑13-3〉
7. 一平全集 第10・11巻 岡本一平著  
 先進社 昭和5年 〈597-18〉
8. 柳瀬正夢画集 叢文閣 昭和5年  
 〈605-10〉
9. プロレタリア漫画カット集 日本労働組合自由連合協議会 昭和8年  
 〈特500-334〉
10. 日本プロレタリア美術集 1931年度  
 日本プロレタリア美術家同盟編 内外社 昭和6年 〈特500-905〉
11. 誰のために ハンセンエホン 松山文雄画 日本プロレタリア美術家同盟出版部編刊 昭和6年 〈特500-169〉
12. 戦争と性漫画 大洋社 [昭和7年]  
 〈特500-790〉
13. 漫画サロン集 (アサヒグラフ臨時増刊) 朝日新聞社 昭和8年  
 〈638-65〉
14. 漫画似顔画集 下川凹天著 弘文社 昭和5年 〈605-108〉
15. ポンチ肖像 下川凹天著 機部甲陽堂 大正5年 〈364-9〉
16. 新漫画派集団漫画年鑑 新漫画派集団編 岡倉書房 昭和8年 〈658-17〉
17. 太平洋漫画読本 建設漫画会編 大日本赤誠会出版局 昭和16年  
 〈726.1-Ke51ウ〉
18. 増産漫画集 加藤悦郎編 新紀元社 昭和19年 〈726.1-Ka86ウ〉
19. 独逸国防漫画傑作集 中西賢三訳編 新紀元社 昭和16年 〈726.1-N38ウ〉
20. 決戦漫画輯 金子三郎編 教学館 昭和19年 〈726.1-Ka53ウ〉  
 [参考出品・壁画パネル]  
 『団々珍聞』 (明治10年創刊)  
 自由民権運動の思想啓蒙、藩閥政治批判を柱に、漫画を重視した時局風刺雑誌。野村文夫創刊。  
 (複製版) 〈Z13-2488〉
- ~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~
- 第I期第28回 明治・大正期婦人解放思想—ミル、ベーベル、エンゲルス等を中心として—  
 昭和59年4月26日(木)～6月26日(火)

婦人解放の思想は、フランス革命における人間解放の理論に触発されて生まれたといわれる。わが国においては、明治初年、福沢諭吉、森有礼、植木枝盛らによって男女同権が説かれて以来、女性たち自からの理論も加わって進展をみせてきた。その歩みの中にわが国より一步を

先んじていた欧米諸国での解放思想がどのように受けとめられ、展開されていったか。今回の展示は、婦人解放思想家のうち、ウルストンクラーフト、ミル、エンゲルス、ベーベル、ケイらを取りあげ、わが国初期における紹介と展開の跡をたどってみる。

#### 展示資料リスト

##### わが国近代思想のあけぼの

幕府の遣外使節団に加わりヨーロッパをみてまわった福沢諭吉はその見聞録をまとめた「西洋事情」をはじめいくつかの西欧文明を紹介した。また、幕末、ロンドンに留学して帰国した中村正直はスマイルズの「自助論」を訳し「西国立志編」として出した。これらはいずれも明治のベストセラーとなって多くの人に読まれ、開国前後の日本人の目を世界に開かせた。

1. 学問のすすめ 福沢諭吉著・刊 明13 (2版) <YDM50006>

明治5年から4年間にわたってだされた本の中で、諭吉は男女の平等を説いた。

2. 自由之理 弥爾(ジョン・スチュアート・ミル)著 中村敬太郎訳 静岡木平謙一郎刊 明5 <YDM27930>

当時イギリスでも甚だしく低かった女子の地位に言及し、法律上の男女平等を主張している。

3. 婦人問題 河田嗣郎 隆文館 明43 <YDM40019>

4. 婦人問題 上杉慎吉 三書楼 明43 <YDM40017>

5. 女子研究 吉田熊次 同文館 明44 <YDM39952>

明治43年頃刊行されたこれら三点に

は、ウルストンクラーフトをはじめミル、ベーベル等海外における婦人解放思想の紹介がみられる。

##### ジョン・スチュアート・ミル(1806~73)

19世紀イギリスの哲学者、社会学者。1869年、"The subjection of women"を著したが、この「婦人の隸属」はミル晩年の作である。ミルは、男女の不平等を規定した法律や制度に対しはげしい批判を加え、家庭生活の従属を断ち切るために、女性の財産権(別産制)と政治への参加、職業と教育の自由を主張した。

6. 男女同権論 弥児(ミル)著 深間内基訳 山中市兵衛刊 明11

<YDM39977>

ミルの思想はすでに明治4年に中村正直による紹介があるが、明治11年の深間内基による本書は「婦人の隸属」の抄訳である。その後、大正期にはあって野上信幸、大内兵衛、による全訳が出る。

7. 婦人解放の原理 ジョン・スチュアート・ミル原著 野上信幸訳 隆文館 大10 <502-54>

8. 婦人解放論 ジョン・スチュアート・ミル著 大内兵衛訳 同人社 大12 <505-62>

##### フリードリッヒ・エンゲルス(1820~95)

ドイツの社会主義者。私有財産の発生が母権制家族から父権制家族への移行をもたらしたという歴史的分析をとり入れ、女性の隸属の起源を史的唯物論の立場から解明した。そして、女性解放のための条件として二つのことを指し示す。一つは私有財産の廃止であり、一つは男性の女性支配を可能にしている社会的な

生産労働への全女性の復帰である。

9. "Der Ursprung der Familie, des Privateigenthums und des Staates. Im Anschluss an Lewis H. Morgan's Forschungen." Von Friedrich Engels. Stuttgart, 1894. <124—78>

1884年に初版が刊行されたが、1891年 第4版ではその間の民族学の急速な発達を考慮して大幅な改訂増補がほどこされた。

10. 男女争闘史 堀利彦 栄川堂書店 大9 <387—131>

本書は「家族・私有財産・国家の起源」の家族に関する部分を翻案した啓蒙書である。初版は明治41年「男女関係の進化」という題で出版され、その後書名を改めて何度も出版された。

11. 羅馬国家の起源 堀利彦 『社会主義研究』 2(3) <雑23—138>

堀利彦は翻訳でも先鞭をつけた。本書は「家族・私有財産・国家の起源」の第5, 6章の一部である。同誌の前号に「国家の起源」をのせているが一対のものである。

12. 家族・私有財産・国家の起源 エンゲルス著 内藤吉之助訳 彰考書院 昭22 (初版は大10. れしな荘版 本書はその再刻) <362—E61bウ>

全訳本はこの内藤訳が最初。当時、堀利彦も全訳を志したが内藤訳が出ることを知って中止したと言われる。

メアリー・ウルストンクラフト (1759~97)

イギリスの婦人思想家。38才という短かい人生の間に数多くの著作を記している。とくに著名なのは「女性の権利の擁護」であるが、その中でメアリーは、男

女の不平等を告発し、「すべての公職と職業への参加」を主張し、職業をつうじての教育を訴えた。人間の自由と平等をめざしたフランス革命の思想に触発されて書かれた先駆的な女権論。

13. "A vindication of the rights of woman; with strictures on political and moral subjects." By Mary Wollstonecraft. London, Johnson, 1792. (reprint ed. 1971.) <EF71—16>

「わが国近代思想のあけぼの」の項でもふれたように明治末、いくつかの本にウルストンクラフトの簡単な紹介が記されてはいるものの、まとまった紹介がみられるのは大正期に入ってからである。

14. 英国の女権拡張問題 長谷川天溪 『太陽』 19(8) 大2, 6 <YA—67>

15. 『中央公論』 28(9) 大2, 7 臨時増刊婦人問題号 <YA5—54>  
島村抱月、内田魯庵がウルストンクラフトを紹介している。

16. 現代生活と婦人 山川菊栄 叢文閣 大8 <387—71>

本書の中に「メリー・ウルストンクラフトとその時代」という章をもうけている。これは、ウルストンクラフトについての章がもうけられた最初。そして女性によって書かれた最初のものである。

17. 黎明期の第一声 厄川白村 『女性改造』 1(2) 大11.11 <雑51—33>  
「女性の権利の擁護」のもつ意義を述べている。白村は続けて同誌3号にも「女権論の内容」を発表している。

エレン・ケイ(1849~1926)

スエーデンの女性思想家。児童の教育、

女性の母性的使命を説き、多くの著作があるが、ここでとりあげた「恋愛と結婚」は婦人解放の古典であると共に恋愛論の古典でもある。ケイは、人類の基礎は新しい生命=子どもであるとする。この新しい生命はどのようにして生まれ育てられねばならないか—それは両親の恋愛と健全な母性によるとして、結婚に至る恋愛関係での男女の平等と、母性の尊重を主張している。

18. "Love and Marriage." By Ellen Key. Tr. from Swedish by Arthur G. Chater. With a critical and biographical introduction by Havelock Ellis. New York and London, G. P. Putnam's Sons, 1911. <173.1—K52>  
本書の出版は1903年。「生命線」第一部；恋愛と結婚として刊行されたが、外国で翻訳されたとき用いられた書名が「恋愛と結婚」であった。スウェーデンでは第2版がだされるとき改題された。本書が出された当初、スウェーデンでは保守派からの猛烈な攻撃があり受け入れられなかつたが、諸外国では反響があった。1904年独訳されその後11カ国語に翻訳された。英訳は1911年アメリカで出た。この英語本が日本の知識層の間でひろく読まれ、当時の婦人運動に大きな影響をあたえた。

19. 現実教 金子筑水 『太陽』 17(12)  
明44.9 <YA-67>  
ケイの人生観や恋愛観について述べている。

20. 自由離婚説 石坂養平 『帝国文学』  
18(12) 大1.12 <雑8—24>  
「恋愛と結婚」の第8章自由離婚の翻訳紹介。

21. 恋愛と結婚 エレン・ケイ著 らいてう訳 『青鞆』 3(1) <雑8—64>  
大正2年1月より連載。平塚らいてうは前記『太陽』『帝国文学』にのった論文にふれ、ケイの思想に啓発されて翻訳を志した。

22. 近代の恋愛觀 厥川白村 改造社  
大11 <517—48>  
大正10年『朝日新聞』紙上に連載したもの。ケイの恋愛論の影響をうけながら白村自身の恋愛至上主義を完成させた。

アウグスト・ベーベル(1840~1913)

ドイツの社会主義者。彼による「婦人と社会主義」はエンゲルス「家族・私有財産・国家の起源」とならぶ社会主義的婦人解放論の名著。

それまでの「市民的」な解放思想に対し、ベーベルは、解放されるべき女性の主体をいたげられた労働者階級の女性たちに求めた。彼は、現代の婦人を抑圧しているすべての根源は抑圧制度（資本主義）にあるとし、女性が全面的に解放される将来社会=「社会化された社会」の理想図をしめしている。

23. "Die Frau der Sozialisms." 34.  
Aufl. By August Bebel. Stuttgart,  
1903. <97-55a>

初版は1880年ライプチヒで出版されたが、これより先、社会主義鎮圧令が出され忽ち禁止。2版は1883年増補訂正を加え、書名も「過去・現在・将来の婦人」とあらためて出版した。この時も禁止令をうけたが、1890年鎮圧令の廃止と共に解禁となり、1895年再び増補訂正を加えた第25版が出、書名も元へ戻した。

24. "Woman in the past, present and future." By August Bebel. Tr. from the German by H. B. Adams Walter. London, 1885. <107-70>  
 この英訳につづき、露、仏、伊等、多くの国語に翻訳された。  
 『平民新聞』広告によると、明治37年、幸徳秋水、堺利彦による翻訳が企画されていたことが分るが、実際には刊行されず翻訳は大正期に入ってからのことになる。
25. 雜録胡麻塩頭 堀利彦 『近代思想』 2(1) 大2.10 複製版 <Z13-2805>  
 ベーベルの死を悼み、彼の「婦人論」を紹介している。山川菊栄はこれを読んでベーベルを知り英訳本を入手したといわれる。
26. 社会主義と婦人 ベーベル著 村上正雄訳 三田書店 大8 <362-163>  
 抄訳である。本書に山川菊栄が序文を寄せている。
27. 婦人論 上・下 ベーベル著 山川菊栄訳 アルス 昭3 (普及版、初版大12) <587-12>  
 日本における最初の完訳本。
28. 紫影録 與謝野晶子 『婦人公論』 3(3) 大7.3 <YA-97>  
 欧米の婦人運動によってとなえられる、妊娠分娩等の時期にある婦人が、国家に向かって経済上の特殊な保護を要求しようという主張には賛成しかねる。それは依頼主義である。
29. 與謝野・嘉悦二氏へ らいてう 『婦人公論』 3(5) 大7.5 <YA-97>  
 元来母は生命の源泉であって、婦人は母たることによって個人的存在の域を脱して社会的な、国家的な存在者となるのであるから婦人が子どものため労働能力をうしなっている期間だけ国家の保障をもとめるのは非難するにあたらない。
30. 與謝野・平塚二氏の論争 山川菊栄 『婦人公論』 3(9) 大7.9 <YA-97>  
 職業による経済的独立と同時に、社会保障制度による母子保護は社会の任務で、共に要求すべきものであるが、眞の母性保護の実現は母性を破壊する資本主義そのものの変革によらなければならない。

### 母性保護論争

明治期に輸入された欧米の婦人解放思想は日本の知識層の婦人たちの思想形成の基盤となり、戦前期婦人解放運動の理論となっていった。大正期に、与謝野晶子、平塚らいてう、山田わか、山川菊栄らによって展開された母性保護論争の中に、女権主義（ウルストンクラーフト）、母性主義（ケイ）、社会主義的婦人解放論（ベーベル）の影響がつよくあらわれている。母性の問題は婦人解放を考えるにあたって欠落させることができない要素

である。

28. 紫影録 與謝野晶子 『婦人公論』 3(3) 大7.3 <YA-97>

欧米の婦人運動によってとなえられる、妊娠分娩等の時期にある婦人が、国家に向かって経済上の特殊な保護を要求しようという主張には賛成しかねる。それは依頼主義である。

29. 與謝野・嘉悦二氏へ らいてう 『婦人公論』 3(5) 大7.5 <YA-97>

元来母は生命の源泉であって、婦人は母たることによって個人的存在の域を脱して社会的な、国家的な存在者となるのであるから婦人が子どものため労働能力をうしなっている期間だけ国家の保障をもとめるのは非難するにあたらない。

30. 與謝野・平塚二氏の論争 山川菊栄 『婦人公論』 3(9) 大7.9 <YA-97>

職業による経済的独立と同時に、社会保障制度による母子保護は社会の任務で、共に要求すべきものであるが、眞の母性保護の実現は母性を破壊する資本主義そのものの変革によらなければならぬ。



### 第Ⅰ期第29回 ボロブドールー初期の資料を中心に—

昭和59年6月28日(木)～9月25日(火)

### 展示資料リスト

- Leemans, C. Bôrô-Boudour dans l'ile de Java. Leiden, Brill, 1874. 5v. <SF-67>

蘭印政府の指示で、M. F. C. Wilsen が模写し、Wilsen と J. F. G. Brumund

の草稿をもとに C. Leemans が約20年かかるってまとめた最初の図版集。

2. Krom, N. J., en Van Erp, T. Beschrijving van Barabudur. Dl. 1, 2. Met platen (I, II, III) S-Gravenhage, Nijhoff, 1920—31. 6v.

〈Sf—77〉

1907~11年蘭印政府による修復工事を指揮した Van Erp が建築関係, N. J. Krom が考古学関係を分担。ボロブドールの建築・彫刻の全ての写真を網羅した報告書。

3. ボロブドゥル 井尻進 上海 大乗社 1924

〈636—167〉

大阪の一店員であつた著者が、わが国でボロブドール研究が従来なかったのに発憤して研究に着手したもの。本書はボロブドールを卒都婆と言うより、むしろ曼茶羅であると見做している。

4. ボロブズゥル 閻婆仏蹟 ボロブズゥル刊行会 1924—25 4 冊 撮影・解説：三浦秀之助，序論：大村西崖

〈414—21〉

東京美術学校出身の著者が大村西崖の勧めで、現地に単身一年余り泊りこみ、ボロブドールを代表する壁画浮彫りの一枚一枚を丹念に写真撮影し、解説を付したわが国最初の図版集。

5. ボロブドールの建築 千原大五郎 原書房 1970

〈KA346—3〉

崩壊の危機にあったボロブドールの修復に協力を要請された著者が建築美学の立場から解説したもの。著者は1972年よりボロブドール保存国際技術諮問委員会のメンバー。

6. ボロブドールの宗教美術とその保存 国際シンポジウム議事録 ボロブド

ル国際シンポジウム実行委員会

1981

〈K275—46〉

ボロブドールの修復工事を記念して1980年9月25~27日京都国立国際会館で内外の学者が参加して行われた国際シンポジウムの議事録。主テーマは、(1). 遺跡の保存修復問題 (2). ボロブドールの歴史的背景、浮彫の解釈である。英文版あり。

7. インドネシア古代美術展 仏跡ボロブドールとその周辺 東京国立博物館 [ほか]編 共同通信社 1981 1 冊

〈K16—188〉

国際シンポジウムの開催に合わせて、ボロブドールの仏像をはじめ、インドネシア各地の博物館に所蔵されているヒンドゥ・ジャワ芸術の粹を集めた展覧会の図録。

なお、本展示会に関する解説・邦文書誌については『アジア・アフリカ資料通報』22(4): 1984.7を参照されたい。

~~~~ \* ~~~ \* ~~~

### 第Ⅰ期第30回 トキ（朱鷺）に関する資料

昭和59年11月12日(月)~60年1月22日(火)

#### 展示資料リスト

##### 第1部 遠い時代

『日本書紀』に「桃花鳥」として記述されて以来、わが国では「トキ」がさまざまな関心をもって記録されてきた。武人の矢羽に適すると説く書物 3., 妙薬の一つに数える本草書 2.がある。「トキ」の

分布も18世紀には全国各地に拡がっていたというが、ここでは、北海道南部に生息していたと記載する地誌を掲げた4.。わが国最初の図解百科全書の挿図は「トキ」の実感を与えないが1.、司馬江漢は銅版画で活写した5.。別種と誤っているけれども、繁殖期を識別して描いた『啓蒙禽譜』の作者の眼は確かであり、まさに飛び立とうとする生態を捉えた幸野模嶺の書が美事である。

1. 和漢三才図会 卷41 寺島良安  
1715年 <117-29>
2. 食療正要 卷3 松岡玄達・定菴  
1769年 <特1-1615><特1-1616>
3. 武器考證 伊勢貞丈輯 1779年  
<W444-5>
4. 松前志 卷4 松前広長 1781年  
<W326-2>
5. 寒柳水禽図 司馬江漢 1790年頃  
(『日本美術絵画全集』第25巻 1977)  
<YP14-314>
6. 啓蒙禽譜 天之巻 1830~40年頃  
<特7-117>
7. 模嶺百鳥画譜 地部 幸野模嶺  
1881年 <9-52>

## 第2部 今世紀になって

禁猲区制度が厳格であった江戸時代の後、僅か半世紀のうちに乱獲され、「トキ」は殆んど失われてしまった。1908年「トキ」は保護鳥に指定されたが8.、この制度は1892年に設けられたにもかかわらず、それまで「トキ」はその対象ではなかったのである。最近「トキ」は滅亡を心配されており、にわかに詳しい研究や写真集が多数発表された9.~15.17.。野生のままでは種の保存が困難であるとし、捕獲・人工増殖の途もとられている16.。

8. 狩猲法施行規則(明治41年9月)  
(法令全書 1908) <YDM31130>
9. 日本鳥類写真集 日本鳥類保護連盟  
1960 <488.038-N6892n>
10. トキ一羽孵化 新穂村教育委員会  
『野鳥』 30巻5号 1965 <Z18-79>
11. トキ Nipponia Nippon の羽色について 佐藤春雄 『鳥』 18巻85号  
1968 <Z18-866>
12. トキにおける羽色変化の機構 内田康夫 『山階鳥類研究所研究報告』 6巻1/2号 1970 <Z18-78>
13. トキ 写真集 新潟日報事業社  
1971 <RA567-22>
14. この鳥を守ろう 山階鳥類研究所  
1975 <RA567-61>
15. トキはなぜ佐渡に残ったか 内田康夫 『アニマ』 4巻4号 1976  
<Z18-934>

## 第3部 海外の情報

トキの学名は、来日したP.F.フォン・シーボルトが送った標本に基づき、ライデン博物館長C.J.テミングによって *Ibis Nippon* と命名され、シーボルトの『日本動物誌』に優れた図が載る18.(1922年 *Nipponia nippon* と改められた)。明治前期日本の動物地理区について提言したT.プラキストンらは、「トキ」の生息を北海道と本州の両方で確認した19.。ソビエト連邦ではシベリアの「トキ」が研究されており20.、朝鮮半島21.、中国23.の資料もある。海外でも危機に瀕している野鳥の一つに挙げられている22.。

16. トキ捕獲事業報告 山階鳥類研究所  
1981 <RA567-162>
17. 能登のトキ 幻の鳥を追った5475日  
村本義雄 1982 <RA567-189>

18. Fauna Japonica. II. P. F. von Siebold und H. Schlegel. 1849 (Reprint ed. 1975) <YP19—98>
  19. Catalogue of the Birds of Japan. T. Blakiston and H. Pryer. 1880. <B—28>
  20. Ptitsy Sovetskogo Soiuza. II. N. A. Gladkov and G. P. Dement'ev. 1951. <RA567—21>
  21. 조선조류월색도설 상 원 흥 구 1964. <488—G24c>
  22. Wildlife in Danger. J. Fisher, N. Simon and J. Vincent. 1969. <RA454—5>
  23. 朱鹮生态的研究 刘荫增 路宝忠 『中国』 1983.1 <Z8—A32>
- ~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~

第Ⅰ期第31回 藩校旧蔵本と蔵書印  
その3

昭和60年1月24日(木)～3月26日(火)

前2回は、仙台藩、水戸藩、金沢藩、名古屋藩など、主として大藩の藩校旧蔵本を展示したが、今回は、中小藩の藩校旧蔵本を選び、その蔵書印を紹介する。

展示資料リスト

二本松藩(陸奥国)

敬学館 文化14(1817)創立。

1. 退食間話 会沢安(正志斎)著 天保13(1842)序 刊 1冊 <136—54>

蔵書印「敬学館図書章」(扉)

2. 文海披沙 謝肇淛著 宝曆9(1759) 刊 8冊(合3冊) <174—36>

蔵書印「敬学館図書章」「惺齋蔵書」(藩儒堀江惺齋印)(いずれも巻頭)

伊勢崎藩(上野国)

- 學習堂 安永4(1775)創立。
3. 風塵集 写 1冊 <136—161>  
蔵書印「學習堂蔵書」(黒印)(巻頭)  
前橋藩(上野国)
  4. 焦氏易林 焦贊著 鐘惺評閱 刊 4冊(合2冊) <159—55>  
蔵書印「博喻堂図書記」(巻頭)
  5. 漁隱叢話 胡仔編 重刊 5冊 <176—21>  
蔵書印「博喻堂図書記」(巻頭)  
勝山藩(越前国)
  6. 類聚国史 菅原道真編 仙石政和校 文化13(1816)刊 30冊(合15冊) <195—113>  
蔵書印「成器堂」「勝山文庫」「饗章」(いずれも巻頭)
  7. 新鑄献盡喬先生綱鑑彙編 喬承詔編著 許達道校 天啓4(1624)刊 65冊(合32冊) <240—19>  
蔵書印「成器堂」「勝山文庫」「饗章」(いずれも巻頭)
  8. 日本八朝記聞 山宮維深(雪楼)編 寛保3(1743)序 写 5冊 <128—159>  
蔵書印「順造館蔵書記」(巻頭)
  9. 神皇実錄 写 1冊 <128—140>  
蔵書印「順造館蔵書記」(巻頭)  
柏原藩(丹波国)
  10. 学資談 田中頤(大藏)著 文化7(1810)刊 1冊 <136—50>  
蔵書印「又新館」(巻頭,巻末)
  11. 聽訟彙案 津阪孝綽(東陽)編 津阪達校 天保2(1831)刊 3冊(合2冊)

- <113—23>
- 蔵書印「崇広館」(巻頭)
12. 国意考辨妄 沼田順義(三芳野城長)著 天保4(1833)刊 1冊 <128—17>  
蔵書印「崇広館蔵書印」「柏原藩蔵書」(いずれも巻頭)  
峰山藩(丹後国)  
敬業堂 文政末年(1820年代後半)創立。
13. 毛詩考 亀井昭陽(昱)著 写 10冊 <139—252>  
蔵書印「敬業堂図書記」「峰山藩」(いずれも巻頭)
14. 論語語由述志 亀井昭陽(昱)著 写 11冊(合6冊) <136—131>  
蔵書印「敬業堂図書記」「峰山藩」(いずれも巻頭)  
村岡藩(但馬国)  
明倫館 天保3(1832)創立。日新館 明治2(1869)創立。
15. 行餘隨筆 黒崎択著 刊 1冊 <142—139>  
蔵書印「明倫館図書記」「村岡藩蔵」(いずれも巻頭)
16. 朝鮮信使進見儀注 新井白石著 正徳元年(1711)成立 写 2冊(合1冊) <131—60>  
蔵書印「山名氏蔵書」(巻頭)
17. 祖徳先生南留別志 荻生徂徠著 宇佐美恵校 付:和歌世話 文化11(1828)刊 5冊 <142—133>  
蔵書印「日新館蔵本章」(巻頭)  
津和野藩(石見国)  
養老館 天明6(1786)創立。
18. 古伝通解 野之口(大国)隆正著 稿本 9冊 <128—171>  
蔵書印「津和野文庫(大)」「多可まさ」(養老館教授 大国隆正印)「かむならふ」2種(校本印 神代文字)(いずれも巻頭)
19. 玉山講義附録 山崎闇斎編 寛文12(1672)刊 5冊(合3冊) <136—28>  
蔵書印「津和野文庫(小)」(巻頭)
20. 辺要分界図考 近藤守重著 文化元(1804)自序 写 9冊 <140—100>  
蔵書印「養老館蔵書印」(巻頭)  
西条藩(伊予国)  
択善堂 文化2(1805)頃創立。
21. 山相秘録 佐藤信景述 佐藤信淵校 文政4(1821)校 写 2冊(合1冊) <145—44>  
蔵書印「西条蔵書」(巻頭)
22. 格致鏡原 陳元龍撰 雍正13(1735)刊 32冊(合16冊) <156—27>  
蔵書印「択善堂図書記」(巻頭)  
岡藩(豊後国)  
由学館 安永5(1776)創立。博済館(医学校) 天明7(1787)創立。
23. 傷寒論三註 周揚俊編 乾隆45(1780)重刊 6冊(合3冊) <155—4>  
蔵書印「由学館(小)」「博済館」(いずれも巻頭)
24. 寛保律令百箇条 写 1冊 <146—187>  
蔵書印「由学館(小)」「岡学校」(いずれも巻頭)
25. 黃帝内經素問諺解 門間嘉寛編 岡本一抱鑑定 寛保4(1744)刊 17冊 <139—123>  
蔵書印「由学館(大)」「博済館図書記」(いずれも巻頭)

~~~~~ \* ~~~~ \* ~~~~